

大阪府立大学看護学部年報

2011年度



2012年
第7卷

はじめに

看護学部は、質の高い看護職の育成という、現在医療界の喫緊の課題を果たすべく地域保健学域・看護学類に移行するため新教育課程を申請し、教員組織は学術研究院看護系へ移行しました。

平成 23 年度当初に看護学部・看護学研究科の課題として取り上げたものは以下の通りです。

(学部)

- ①保健師助産師看護師学校等指定規則改正にともなう保健師教育の検討と新カリキュラム申請
- ②入試広報活動推進
- ③府立病院機構との連携推進
- ④ピア授業参観実施

(研究科)

- ①専門看護師教育課程（CNS）38 単位への移行準備
- ②「がんプロフェッショナル育成プロジェクト」（平成 19 年度～23 年度）の推進
- ③国際交流（タイ マヒドン大学 Exchange Program）の評価・推進

これらの課題は、各委員会・ワーキンググループ等の活動により達成できたもの、また時期的に実現が難しかったもの等、達成度は様々です。

大学全体の組織が大きく変化する中で「府大看護学研究科」として教育・研究を通して社会に貢献し続けるためには、自己点検・評価に基づき PDCA サイクルを丁寧に回し、さらに質の高い教育・研究を提供できる様に改善していくことが求められております。

年報作成にあたっては看護学研究科の歩みをふり返り、データに基づき客観的にまとめる努力をしたつもりです。労の多い編集作業を担った看護学部部局評価・企画実施委員会委員等担当者に心から感謝申し上げます。

平成 24 年 3 月 31 日

大阪府立大学 看護学部

看護学部長・研究科長 高見沢 恵美子

目 次

はじめに

第1章	学部及び研究科の目的	1
第2章	学部・研究科の組織	3
第3章	学部・研究科の運営	6
第4章	学生の受け入れ	30
第5章	教育内容及び方法	35
第6章	学生支援	43
第7章	教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム	46
第8章	研究活動	50
第9章	社会貢献と国際交流	53
資料	大阪府立大学看護学部教員業績一覧	61

編集後記

第1章 学部及び研究科の目的

1. 看護学部

看護学部の教育目的は、「生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、科学的専門知識・技術を教授し、看護を総合的な視野で捉えられる人材を育成する。」であり、教育目標として以下の5つを掲げている。①人間の痛み、苦しみを分かち合え、幅広い教養を身につけ、生命の尊厳について深く理解し、行動できる豊かな人間性を養う。②看護に必要な知識と技術を修得し、科学的根拠に基づく適切な判断と問題解決能力とあわせ、社会の変化や医療技術の発展に対応できる能力を養う。③保健・医療・福祉・教育・地域においてヒューマンサービスを提供する人々と連携し、看護の実践と調整的な機能を果たす能力を養う。④変化する社会の中で看護の役割を展望し、発展させ、地域的・国際的な視野で貢献できる能力を養う。⑤看護学への関心を深め、総合的な視野と看護研究の基礎能力を養う。

以上の目的は、大阪府立大学看護学部規程に「教育目的」として定められている（規程第54号第2条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000931.html）。更に教育目標は、履修要項およびホームページと看護学部案内に示し、学内外に広く周知されている。

特に看護学部の新入生を対象としたガイダンスにおいては、教務委員長より教育目的、教育目標について説明を行うとともに、履修要項や学部案内の冒頭部分に掲載することで、より意識づけがされるよう配慮している。

更に新たに就職した教員には、看護学部長からのオリエンテーションの際に、本学部の教育目的、教育目標について説明を受ける機会が設けられている。また、受験希望者には学部案内を送付すると共に、オープンキャンパスや入試ガイダンスの参加者に説明を行い、広く社会に公表されている。

2. 看護学研究科

看護学研究科の教育理念は、「生命と人権の尊重を基盤とし、保健・医療・福祉及び社会の諸変化に対してクオリティ・オブ・ライフ（QOL）を志向した創造的・実践的な対応ができる専門的知識と技術をもった人材を育成し、看護学の発展と人々の健康に寄与する。」である。

博士前期課程では、「人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な看護実践能力を有する人材を育成する。」を目的とし、「①専攻する看護専門領域に関連する理論に精通し、看護活動に適用する。②専攻する専門領域の看護実践の質の向上を目指して、専門性の高い看護ケアを提供し、改革を推進する。③高い倫理観を持ち、複雑な倫理的問題を判断し調整する。④看護に関する研究業績をクリティカルに検討し、看護ケアに積極的に活用する。⑤看護教育並びに看護実践の向上のために相談・教育・調整機能を高める。⑥専攻する看護専門領域に関する研究課題に取り組み、看護研究能力を高める。⑦看護実践・研究・教育を通して国際交流に貢献する。」ことを目標にしている。

博士後期課程では、「豊かな学識を有し、看護学分野において学術・研究を推進し、その深奥を極め、自立して研究活動を行うことのできる能力を有する人材を育成する。」を目的とし、「①看護実践の改革を目指し、専門性の高い看護ケアを開発する。②理論や看護援助方法の妥当性を科学的に検証する。③優れた看護実践、関連領域の知識・研究を用いて研究活動を行い、看護学の発展に寄与する。④教育、医療、研究、行政関連機関において、社会の変革に対応できる指導的・管理的リーダーシップを発揮する。⑤都道府県や国家レベルの政策開発や意思決定に参画する。⑥学際的、国際的な視野に立ち、学術交流、研究活動、保健医療活動に貢献する。」ことを目標

にしている。

看護学研究科の目的は、大阪府立大学大学院看護学研究科規程に示されている（規程第 61 号第 2 条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001001.html）。さらに、「教育理念」および「博士前期課程教育目的・教育目標」、「博士後期課程教育目的・教育目標」は履修要項およびホームページと看護学研究科案内など学内外に広く周知されている。

特に研究科の新入生を対象としたガイダンスにおいては、看護学研究科長より教育目的、教育目標について説明を行うと共に、履修要項や研究科案内の冒頭部分に掲載することで、より意識づけがされるよう配慮している。

また、受験希望者には研究科案内を送付すると共に、受験前の指導教授との面談において説明を行うなど、看護学研究科の目的は、広く社会に公表されている。

第2章 学部・研究科の組織

1. 領域・分野と教員組織

1) 看護学部の教員組織

看護学部の教育目的に基づき、学士課程は学則に則って遂行され（規程第47号第1～42条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000031.html）、教員は大学設置基準第12～13条に基づき確保している。平成23年10月1日現在、専任教員数59名（教授17名、准教授14名、講師4名、助教24名）で教育課程を遂行している。教員数、教員配置については、ホームページ上で公表している。

教員組織は看護学部の教育目的に則り、教育課程として共通教育科目（教養科目・基盤科目）、専門支持科目、専門科目という3区分からなる。教員組織は、健康科学、人・環境支援看護学、家族支援看護学、生活支援看護学、療養支援看護学の5領域となっている。健康科学領域は共通教育科目（教養科目・基盤科目）、専門支持科目の一部を担当し、他の4領域は専門科目に対応するよう編成されている。これに基づき、各領域に教授、准教授、講師及び助教を配置している。教員間の組織的な連携体制は、各領域に主任教授がおかれ、領域内および領域間の調整が行われる。教育に係わる責任は、授業科目毎に担当者が教務委員会、教授会を経て毎年度決定され、シラバスに明示されている。

上記のように教員組織は5領域で構成され、教育研究を推進している。各領域の教育課程上の担当分野は次の通りである。「健康科学領域」では、教養教育と専門支持教育を担当している。「人・環境支援看護学領域」では、看護・看護学とは何かについて看護の対象となる「人」、その人をめぐる「環境」、看護の目的である「健康」から理解するとともに、基礎的な看護技術を習得し、統合された存在である人に対して、看護独自の機能を発揮するための基本となる知識と技術を習得する。「家族支援看護学領域」では、親子、家族関係、家族のライフスタイルおよび家族発達に応じた、家族の健康の維持・増進・疾病予防に向けた支援と健康問題への援助に必要な基本的知識と技術を学ぶ。「療養支援看護学領域」では、健康上の問題を有する成人期の人々へのケアについて、看護理論を基盤に、クオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上を目指した健康回復、健康維持あるいは安らかな死への援助を行う知識と技術を習得する。「生活支援看護学領域」では、地域で生活する高齢者や精神に障がいをもつ人々など、すべての年齢層を対象に健康の維持増進から在宅療養の支援まで、看護に必要な基本的知識と技術を学ぶ。

看護学部の教員は、専門性に基づき各領域に配置されて学部の教育にあたっており、各々が研究から培った能力を発揮するように構成されている。したがって、学士課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっている。

なお、平成17年4月に公立大学法人大阪府立大学として統合されたことを契機に「豊かな人間性を形成するため、総合大学としての教養教育を生かすこと」を基本的な考え方として、教養教育が組み立てられた。教養教育は、語学、情報教育、健康・スポーツ科学演習からなる基盤科目と教養科目から構成されている。教養科目は、羽曳野キャンパス開講科目に加え、週に1回中百舌鳥キャンパスにおいて開講されている61科目の中から選択することができる。学生は、羽曳野キャンパスおよび中百舌鳥キャンパスにおいて、多くの科目から教養科目・基盤科目を選択することができるようになった。なお、中百舌鳥キャンパスとの交通にはキャンパス間のバスを授業開始時間にあわせて運行している。

2) 看護学研究科の教員組織

看護学研究科においては、大学院設置基準第9条および大阪府立大学学位規程（規程第63号第8条

http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001501.html)に基づき、博士前期課程は39名、博士後期課程は32名の研究指導教員をそれぞれ確保している。なお大学院担当教員は、大学院看護学研究科2011年度学生必携で公表している。

看護学研究科では、多様化、複雑化、高度化する社会環境の中で、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を創造的・実践的に発展させ、国際社会及び地域社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる看護分野の高度な実践者、管理者、研究者、教育者を育成するという大学院設置の趣旨・目的に基づいて、幅広い看護の領域をカバーできるように専攻を構成している。教育課程は基盤教育と専門教育で構成されている。

博士前期課程では、「人・環境支援看護学領域」は看護技術学・看護情報学・看護管理学・看護教育学の4分野、「家族支援看護学領域」は母性看護学・小児看護学・家族看護学の3分野、「生活支援看護学領域」は地域看護学・在宅看護学・老年看護学・精神看護学の4分野、「療養支援看護学領域」は急性看護学・慢性看護学・がん看護学・感染看護学の4分野の合計15分野から構成されている。上記の15分野にはそれぞれ修士論文コースがあり、そのうち11分野は専門看護師コースを開設している。

博士後期課程は、「生活支援看護学領域」と「療養支援看護学領域」の2領域で構成している。「生活支援看護学領域」は看護技術・情報学分野、看護管理・教育学分野、地域・精神看護学分野、在宅・老年看護学分野、母子健康看護学分野、家族健康看護学分野の6分野で構成している。また、「療養支援看護学領域」は急性療養看護学分野、慢性療養看護学分野、がん療養看護学分野、感染療養看護学分野の4分野で構成している。

3) 教員の採用

大学の設置目的及び教育理念に基づき、教員の任期制、公募制及び外国人の兼任教員の確保が導入されており、教員組織の活動をより活性化するために多様で透明性を確保した教員採用の措置をとっている。

看護学部教員の性別構成、年齢構成(平均年齢)は、資料2-1-3に示すとおりである。看護学部では、外国人教員を兼任教員(外国語)として確保し、採用している。教員の採用に関しては任期制及び公募制を導入している。本学教員の任期に関する規程に基づき、任期制は助教の採用に適用し、任期は5年としている(規程第14号第2条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000411.html)。公募制は、本学教員人事規程(規程第15号第3条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000381.html)に基づき、全教員の採用に適用し、公募方法は資格、経験年数等の条件を明示し、本学ホームページ、研究者・人材データベースJRECINを活用している。

資料2-1-3 平成23年度看護学部教員 性別・年齢構成

平成23年10月1日現在

講座 構成		健康科学	人・環境支援	家族支援	生活支援	療養支援	合計
		教員数	2	12	12	16	17
性別(名)	女性	0	11	11	15	13	50
	男性	2	1	1	1	4	9
平均年齢 (歳)	教授	55.5	57.0	52.3	54.5	52.0	54.0
	准教授		48.0	47.5	44.8	49.8	47.5
	講師				36.5	46.0	41.0
	助教		37.2	36.2	36.7	39.0	37.0

教員の採用に関する事項は、本学教授会規程に基づき、教授会で審議し(規程第 62 号第 3 条 4 項 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000111.html)、本学人事委員会規程に基づき(規程第 99 号第 1 条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000151.html)人事委員会で審議する。教育研究上の指導能力について審査を行い、本学教員選考基準により教員を選考している。具体的には、履歴書、教育研究業績書、主要な著書または論文、および採用後の専門分野の研究と教育に対する方針等の書類審査、面接・プレゼンテーションにより評価する。平成 23 年度は、平成 24 年度採用予定の教授 1 名、准教授 3 名、助教 3 名を選考している。なお、任期制による任期満了助教の任期満了に伴う更新審査を行い、任期更新を希望した助教 1 名を審査し任期を更新した。

4) 教育支援者

大阪府立大学羽曳野キャンパスでは、看護学部、看護学研究科と総合リハビリテーション学部、総合リハビリテーション学研究科を設置し、専任教員を看護学部、看護学研究科に 59 人、総合リハビリテーション学部、総合リハビリテーション学研究科に 40 人配置している。これら 2 学部、2 研究科の事務をつかさどるために、総務・会計・入試・学生・教務・図書業務等を担当する事務職員 13 人、契約職員 15 人、非常勤職員若干名を配置している。

なお、平成 17 年度からの 3 大学統合、再編、法人化に伴い分離している羽曳野キャンパスの事務のうち一元的に処理することが適当な業務については、法人本部に集約して事務の効率化を図っている。

ティーチングアシスタント(TA)については研究科会議の承認を得て、適宜活用を図っている。平成 23 年度の TA 採用人数は延べ 26 名、総時間は 514 時間であった。

また、平成 21 年度より教員支援者として看護学部教員を支援する非常勤事務職員 1 名が配置された。教材用資料複写、書類作成等の補助業務を行っている。

2. 付属組織・センター

看護学研究科は、療養学習支援センターを有するが、これは療養学習支援に関する研究・教育・実践を推進するとともに、その成果を地域に還元し看護の質の向上に寄与するという趣旨に基づき、平成 17 年から附置された。療養学習支援センターの設置趣旨および業務等は、大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター規程(規程第 21 号 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001711.html)に明示している。療養学習支援センターは、円滑な運営を図るため、大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター運営委員会を設置している。運営委員会は大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター運営委員会規程(規程第 22 号 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001721.html)に基づき、5 名の運営委員で組織されている。センターの主な事業は、地域住民および医療機関の利用者を対象に各種の療養学習支援活動および健康相談活動、療養学習支援に関する研究活動、療養学習支援に関する学術交流活動である。

第3章 学部・研究科の運営

1. 運営組織

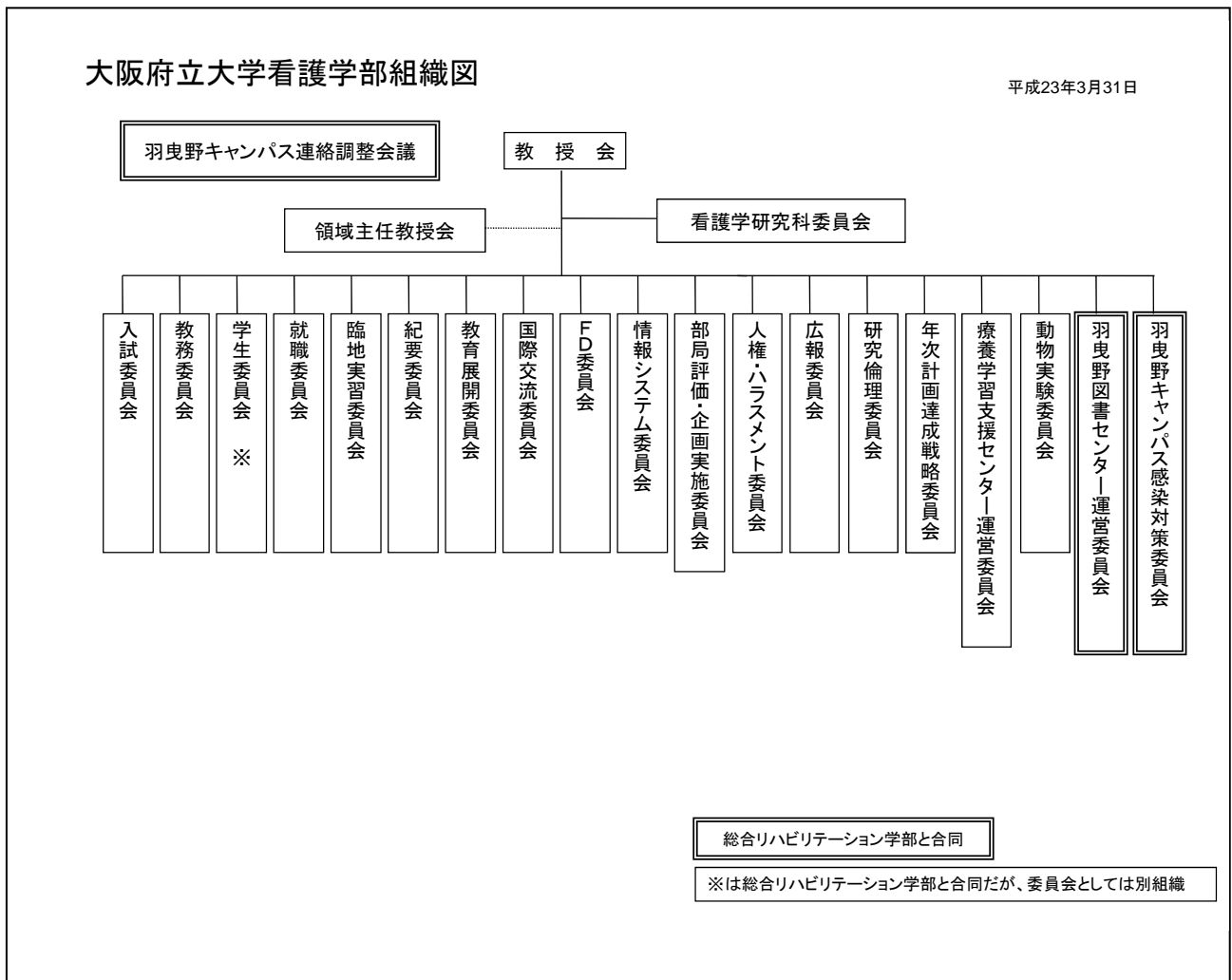
教育活動に係る重要事項を審議するために教授会を最高意思決定機関と位置づけ、その下に教育活動に係る重要事項を審議するための委員会を設置し、定期的に会議を開催し、それぞれの分掌事項を効率的に検討し、円滑に審議を進めている。

本学教授会は、教育課程の編成に関する事項、学生の入学、卒業又は課程の修了、その他学生の在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項、学生の支援及びその身分に関する事項、教授会を置く組織の長から付議された教員人事に関する事項、その他教授会を置く組織の長から付議された教育又は研究に関する重要事項について審議する。教授会の下に教務委員会、臨地実習委員会、学生委員会等を設け、教育活動が円滑に行われるための必要な活動を行っている。資料3-1は看護学部の運営組織図である。

教務委員会、臨地実習委員会、学生委員会等は毎月1回の定例の会議を開催している。特に、教務委員会では、教育課程に関すること、履修に関する規程の制定及び改廃に関すること、教育の実施及び運営に関することなどについて検討し、臨地実習委員会では、教育の中の臨地実習の運営に関する事項を中心に検討し、その検討結果は教授会で報告し、重要事項については更に教授会で審議し、決定している。

看護学研究科における重要事項については、研究科委員会で審議し、教授会で最終決定となる。

資料3-1 看護学部組織図



2. 委員会活動

委員会名	入学試験委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 入学試験に関する企画に関すること</p> <p>(2) 入学試験の適正かつ円滑な実施に関すること</p>
構成員	<p>高見沢学部長(委員長)、階堂教授(副委員長)、高辻教授、上野教授、中村教授、堀井教授、町浦教授、岡本准教授、藪下准教授、撫養助教、入矢事務所長(羽曳野キャンパス)</p>
活動概要	<p>1. 委員会の開催</p> <p>1) 看護学部入学試験委員会(定例11回、臨時4回)</p> <p>2) 入学試験運営委員会(全学)6回</p> <p>2. 入試の実施状況</p> <p>1) 看護学研究科</p> <p>(1) 博士前期課程(8/20、第2次募集:2012/2/5)</p> <p>(2) 博士後期課程(8/21、第2次募集:2012/2/5)</p> <p>2) 看護学類(学部)</p> <p>(1) 特別選抜:学部2年次編入学試験(9/3の予定、台風のため9/4に延期して実施)、学類推薦入学試験(11/19)、学類外国人留学生(2012/2/25、出願者なし)</p> <p>(2) 一般選抜:前期日程試験(2012/2/25)、後期日程試験(2012/3/12)</p> <p>3) その他</p> <p>(1) 大学入試センター試験(2012/1/14、1/15)</p> <p>3. オープンキャンパス(8/6、8/7:参加者1421名)</p> <p>4. 入試ガイダンス(10/22、高校生他の学生73名、保護者他30名)</p> <p>5. 入試説明会等</p> <p>1) 来校した高校への説明会(大学体験):2件</p> <p>2) 高校訪問:16件</p> <p>3) 大学説明会等:15件</p> <p>4) その他:1件</p> <p>6. 平成25年度博士後期課程入試と2年次編入学試験について</p> <p>1) 2年次編入学試験を博士後期課程入学試験と同一日に実施</p> <p>2) 2年次編入学試験の試験科目の変更</p>

来年度の課題	<ol style="list-style-type: none">1. 入学試験全般について<ol style="list-style-type: none">1) 入試運営の整備・見直し2) 入試実施要領の整備・統一3) 学部教員の業務平準化に向けての努力2. 入学生の確保について 広報、高校訪問、オープンキャンパスなどの継続と改善（オープンキャンパスは広報委員会の応援を得て実施する）3. その他 事務体制の強化要望
--------	--

委員会名	教務委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 教育課程に関すること</p> <p>(2) 履修に関する規程の制定及び改廃に関すること</p> <p>(3) 教育の実施及び運営に関すること</p>
構成員	高辻教授（委員長）、楢木野教授（副委員長）、杉本教授、籬持教授、中嶋准教授、和泉准教授、松田准教授、細田准教授、山本講師
活動概要	<p>平成23年度は8回の教務委員会と臨時の持ち回り委員会を開催した。</p> <p>下記の内容について重点的に活動した。</p> <p>① 4月に年間の定例教務委員会の活動計画を作成し、計画にそって運営を行った。</p> <p>② 24年度に開始する新カリキュラムに実施に伴う、時間数変更、開講時期の変更に対応について検討した。</p> <p>③ 地域保健学域、看護学類の履修要項を作成した。</p> <p>④ 全学教務関係委員会(教育運営会議、教務委員会、共通教育専門委員会)の報告を行い、府立大学全体の教務内容と学部教務委員会が連動して運営できるようにした。</p> <p>⑤ 全学での英語教育の充実の方針に沿って、TOEIC® I Pテスト、実践看護英語コミュニケーション講座を実施した。</p> <p>⑥ 専門支持科目の単位が卒業要件を満たしていない学生の単位修得状況と必要な履修指導内容を明示した書類をアドバイザー教員に配布し、個別指導を依頼した。</p> <p>⑦ 看護学部・研究科における非常勤講師の任用時間数に関する申し合わせ事項に基づき、非常勤講師の任用は教務委員会で審議することとした。</p> <p>⑧ 4月に行われる履修オリエンテーションの内容・配布資料を再検討し、円滑な説明会を開催する。</p> <p>⑨ 総合研究の選択方法を学生主体にし、簡略化した。</p>
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新大学と新カリキュラムに伴う時間割の作成作業 ・単位の読み替え作業

委員会名	学生委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 学生の休学、退学、復学、除籍に関すること</p> <p>(2) 学生の表彰及び処分に関すること</p> <p>(3) 学生の生活指導に関すること</p> <p>(4) 学生の福利厚生に関すること</p> <p>(5) 学生相談に関すること</p> <p>(6) その他学生の生活に関すること</p>
構成員	上野教授（委員長）、青山教授（副委員長）、鎌田准教授、石田准教授、田中（結）准教授、木村准教授、佐藤准教授
活動概要	<p>1. 委員会の開催</p> <p>1) 羽曳野キャンパス学生委員会（羽曳野キャンパス共通・看護学部 10 回）</p> <p>2) 全学学生委員会 3 回（臨時 1 回）</p> <p>3) 障がい学生支援センター運営委員会 1 回</p> <p>4) 全学アドバイザー大会 1 回</p> <p>2. 活動状況</p> <p>1) 学生の休学、退学、復学、除籍に関すること</p> <p>〈休学〉申請者</p> <p>23 年度休学者：学部 5 名 大学院 6 名</p> <p>〈退学〉</p> <p>23 年度退学者：学部 1 名 大学院 1 名</p> <p>〈除籍〉</p> <p>23 年度除籍者：学部 1 名</p> <p>2) 学生の表彰及び処分に関すること</p> <p>〈表彰〉</p> <p>前期：学部 4 名（杏樹賞）、学長顕彰 1 名</p> <p>後期：学部 6 名（杏樹賞）</p> <p>3) 学生の生活指導・相談に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業前の学生の状況把握 ・アドバイザー活動報告のまとめ ・心理的問題をかかえた学生への相談（学生相談室カウンセラー、健康管理センター分室看護師との連携） <p>4) 学生の福利厚生に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4 月学生研修の実施 ・4 月履修説明会の実施、準備 ・学生生活の手引きの修正 ・「私の健康手帳」の説明 ・杏樹祭における学生の運営状況の見回り、監督

	<ul style="list-style-type: none"> ・学位記授与式における準備、当日の進行 5)その他 <ul style="list-style-type: none"> ・大学院授業料減免対象者の評価 ・大学院奨学金返還に関する評価 ・友好祭物品貸し出しの相談 ・謝恩会の相談 ・アドバイザーマニュアルの改訂
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学生相談室の利用の活発化 ・心理的問題を抱えた学生の相談にアドバイザー教員の時間を要すること ・学生への対応についての教員への研修 ・学生委員会と実習、実習施設との連絡調整が重なる教員があり、委員会の運営に若干の支障があった
その他 人員構成等	<ul style="list-style-type: none"> ・学生委員会の活動に表彰及び処分があるので、教授2名（委員長を含め）は必要 ・規定のメンバーより多くなっているが、新入生学生研修・ガイダンス等、杏樹祭、学位記授与式など学生に関連する行事の時はマンパワーを必要とするので、現状配置が必要

委員会名	就職委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 就職業務方針に関すること</p> <p>(2) 就職の相談及び指導に関すること</p> <p>(3) 求職、求人に関すること</p> <p>(4) 就職についての調査に関すること</p> <p>(5) その他就職に関すること</p>
構成員	星教授（委員長）、町浦教授、牧野准教授、大川講師、別宮講師、石橋助教、齋野助教、森木助教、古山助教
活動概要	<p>1. 就職ガイダンス</p> <p><4年生対象>：年3回</p> <p>第2回（6月）：「就職活動について」～卒業生新卒者を迎えて～ 「ワンポイント就職セミナー」講師：マイナビ間瀬氏</p> <p>第3回（10月）：「国家試験の準備と手続きについて」</p> <p>第4回（2月）：「就職と国家試験について」「国家試験受験票配付」 「私の記録」USB配付</p> <p><3年生対象>：年2回</p> <p>第1回（8月）：「実習施設・府立5病院の紹介」 府立病院機構の教育担当者等による病院の概要・実習指導体制</p> <p>第2回（2月）：「進路と就職活動について」「国家試験について」</p> <p>2. 学生への就職支援</p> <p>1) 模擬面接：平成23年6月から7月に実施 67名（前年39名）</p> <p>2) 病院就職説明会開催： 大阪府立病院機構：6月6日 大阪府立病院機構：8月8日（実習施設としての紹介）</p> <p>3) 学生の個別相談 公務員試験（保健師就職）に関する相談：随時 内定取り消し等の相談：随時</p> <p>3. 求人施設への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求人施設の大学訪問：随時（委員長、事務が対応） ・推薦就職制度への対応（委員長、アドバイザー教員、事務が対応） <p>4. 就職に関する事務関係（事務）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職情報、就職支援室の管理、就職状況の把握（進路報告のWeb化）

	<p>5. 国家試験に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験準備や受験手続について：就職ガイダンスにて説明 ・模擬試験に関する相談：模擬試験担当者の選出と指導 ・合格発表時の対応
<p>来年度の課題</p>	<p>1. 今年度の活動の継続</p> <p>2. 新たな内容：</p> <p>第1回 卒業生の里帰り企画（看護学部ホームカミングデー）の実施</p> <p>日時（予定）：平成24年6月9日（土）13：00～15：00</p> <p>共催（予定）：大阪府立大学看護学系同窓会（白鳥会）</p> <p>案内方法等：①在学中に案内 ②看護学部ホームページに記載</p> <p>③参加者は学生課へ電話またはメールで連絡</p> <p>内容・目的：新人看護職者としてストレスの高い2～3か月頃に卒業生が母校に集まる場を設定し、互いの情報交換および先輩・教員から助言を得る。学生時代の慣れ親しんだ環境で気分転換を図ることで、日々のストレスの軽減と看護職を続けることに前向きな気持ちを持ち続ける一助になる（早期退職予防）。</p>
<p>その他 人員構成等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度と同様の人員希望 ・里帰り企画（看護学部ホームカミングデー）への支援

委員会名	臨地実習委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 臨地実習の目的・目標に関すること (2) 臨地実習の運営に関すること (3) 臨地実習の指導体制の整備に関すること (4) 臨地実習に関する規程の制定及び改廃に関すること (5) その他臨地実習の実施及び運営に関し必要なこと
構成員	杉本教授（委員長）、桑名教授、楢木野教授、佐保准教授、林田准教授、牧野准教授、藪下准教授、大川講師、森木助教、山内助教
活動概要	<p>今年度の運営報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主な委員会活動の回数 委員会 9 回、3 年生への実習オリエンテーション、5 医療センター臨地実習連絡回 1 回 2. 所管事項については、「実習運営担当」「5 医療センター担当」「実習関連情報管理担当」と分担して、実施した。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習進度表および学生配置表等の作成 2) 3 年次生実習オリエンテーションを実施 3) 実習要項の印刷（総合実習、各科目の実習） 4) 府立 5 医療センター臨地実習連絡会の企画・実施 5) 府立 5 医療センターの平成 24、25 年度の実習計画の作成ならびに各施設担当教員と連携した施設との実習・調整 6) 学生による臨地実習評価のアンケートの実施およびデータの分析、報告書の作成 7) 平成 23 年度臨地実習における事故報告のまとめと報告 8) 総合実習の学生実習配置数ならびに学生の選択方法・時期の検討 9) 実習指導中の学生や教員間での連絡調整用としての PHS の必要性について検討を開始
来年度の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合実習の学生配置のスムーズな決定 2. 実習指導上の環境を整えるため、実習期間中に教員に PHS の貸与ができないか検討 3. 実習評価表の見直し

委員会名	紀要委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 紀要に関すること</p>
構成員	堀井教授(委員長)、桑名教授、鎌田准教授、隅田助教
活動概要	<p>1. 委員会開催数 13回</p> <p>2. 紀要第18巻第1号(原著3編、研究報告7編、資料2編)の発行：(2012年3月) 羽曳野キャンパス教員、看護学研究科院生、近隣施設および全国約220施設に配布</p>
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も掲載論文数5編以上を確保する。

委員会名	教育展開専門委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 公開講座の企画立案及び実施に関すること (2) 地域交流に関して必要なこと
構成員	町浦教授（委員長）、杉本教授、中嶋准教授、松田准教授、中山(由)助教、齋野助教、古谷助教
活動概要	<p>1. 委員会開催：看護学部委員会2回、総リハ学部との合同会議2回、委員長会議2回を開催した。</p> <p>2. 羽曳野キャンパス公開講座の企画・運営： 平成23年度は看護学部が主担当でこのうち3回を担当した。テーマは「快適な人生（QOL）をめざして～災害に備えて～」、受講者は39名、述べ132名であった。参加者が激減したため、来年度に向けて検討課題が残った。アンケートの結果は、74%が「とてもよかった」「よかった」と回答し、80%が役立つ知識が得られたと回答した。4回参加者への参加証授与を中止し、毎回の参加賞にしたが、概ね好評であった。</p> <p>3. はびきの市民大学府大担当枠の講師推薦と調整： 平成23年11月16日～平成24年1月25日の水曜日計8回開催のうち、6回分を看護学部が担当し、講師推薦と調整を行った。</p> <p>4. 平成23年度はびきの健康フォーラムへの講師派遣と運営参加： 平成24年2月19日にLICはびきので開催された。総合リハビリテーション学部より講師として伊藤准教授を派遣した。当日の受付、会場係を看護学部より2名、総合リハビリテーションより1名が参加した。</p> <p>5. 全学での活動 1) 府大講座担当講師依頼 (講師；垣本教授 「世界と日本のエイズ事情、そして私たちの意識」平成23年9月8日開催) 2) 全学委員会への出席（第1回8月開催、松田委員 代理出席）</p>
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座参加者の増加に向けた対策が必要（来年度は総合リハビリテーション学類が主担当） 講座への申し込みは往復はがき、ファックス、メール可とする 市立図書館や近隣の診療所等にチラシを置いてもらう 地域の老人クラブ連合会等に働きかける、など ・参加者数が少ないと講座に必要な物品等が購入できない場合があるため、学部長裁量経費からの予算補充を検討いただきたい。

委員会名	国際交流委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 国際交流に関する企画立案及び実施に関すること</p> <p>(2) その他、国際交流に関して必要なこと</p>
構成員	<p>垣本教授（委員長）、中山(美)教授、細田准教授、山本講師、根来助教、椿助教、池内助教、井上助教、山地助教</p>
活動概要	<p>1. マヒドン大学大学院との学術交流事業 平成23年10月16日から30日まで マヒドン大学大学院看護学研究科より4名（ラマティボディより2名、シリラートより2名）の学生を受け入れた。</p> <p>2. 外国人招へい教員事業 国際交流推進機構が実施する外国人招へい教員事業に教員を招へいした。 期間：平成23年11月7日から27日まで 招へい教員：タイ王国・マヒドン大学ノッパワン准教授 授業、セミナーなど計7講義を英語で実施</p> <p>3. 国際看護セミナーの開催 日時：平成23年11月17日 講師：マヒドン大学ノッパワン准教授 演題：タイにおけるDomestic violence</p> <p>4. その他、委員長は全学の国際交流会議に出席</p>
来年度の課題	<p>1. マヒドン大学大学院との学術交流事業 本学より派遣大学院学生を選出し派遣する（4名予定） 平成25年までの期限となっている学術交流協定の更新準備</p> <p>2. 外国人招へい教員事業 マヒドン大学より招へいする予定だが受入れ体制などは未定</p> <p>3. 国際看護セミナー 例年通り11月頃に開催する 宿泊先は再検討を要する</p> <p>4. その他 地域看護学へのマヒドン大学教員学生スタディーツアー受入れ</p>

委員会名	ファカルティ・ディベロップメント委員会
目的	<p>委員会は、教員および学生を対象として次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 教育内容・教育方法の改善に関すること</p> <p>(2) 教員の教育・研究能力の向上に関すること</p> <p>(3) 教育・研究活動の評価の実施に関すること</p>
構成員	長畑教授（委員長）、中山(美)教授、田中(結)准教授、中嶋准教授、林田准教授、日下部助教、隅田助教
活動概要	<p>委員会開催は①4/6、②6/9、③8/2、④2/6、の4回であった。</p> <p>1. FDセミナー（担当：長畑、田中、中嶋、隅田） 看護学部FDセミナーを2回企画した。第1回セミナーは「平成生まれ世代との向きあい方」というテーマで8/25に実施し、99名が参加した。第2回セミナーは「あなたの教育にかける思いを聞かせてくださいーティーチング・ポートフォリオの紹介ー」というテーマで3/9に実施し、38名が参加した。</p> <p>2. ピア授業評価・参観（担当：林田、日下部） 本学に就任2年目の教員8名を対象にピア授業評価を行った。また、ピア授業参観については、年4回の参観提供科目募集と情報提供を行い、各教員への周知を図った。</p> <p>3. 授業アンケート（担当：中山） 高等教育開発センターと連携し、授業アンケートについて啓発を行った。</p>
来年度の課題	<p>1. FDセミナーについて、昨年まで年に3回のセミナーを企画・実施していたが、今年度より実習期間が延長したため、教員が全員参加できる日程が限られ、2回の企画・実施となった。来年度以降も、年2回の企画が現実的であり、回数が少ない分、内容を充実させる必要がある。</p> <p>2. ピア授業評価と参観を並行して行っているが、実務に係る負担と効果を考えると、来年度からピア授業参観に一本化することが望ましいとが、今年度のピア授業参観の実績が少ないため、さらに周知徹底を図る必要がある。</p> <p>3. 平成24年度のポートフォリオ導入が円滑に進むよう、ワーキング委員と連携し、支援する。</p>

委員会名	情報システム委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 情報システムに関すること</p> <p>(2) Webページのコンテンツの管理運用に関すること</p> <p>(3) その他情報システムの運営に関すること</p>
構成員	<p>階堂教授（委員長・学術情報センター情報システム委員会委員）、 岡崎助教（システム管理担当者）、江口助教（システム管理担当者）、 松本助教（システム管理担当者）、撫養助教（システム管理担当者）</p>
活動概要	<p>1. 学術情報センター情報システム委員会開催後に、必要に応じてメールによる連絡や委員会会議を開催している。</p> <p>1) 第1回委員会（6月22日開催）</p> <p>(1) 委員会規程の確認と役割の確認</p> <p>(2) 第1回及び第2回学術情報センター情報システム委員会報告 (学外から学内ネットワークを利用できるSSL-VPN、特に電子ジャーナルの利用について、他)</p> <p>2) 第2回委員会（10月20日開催）</p> <p>(1) 第3回～第5回学術情報センター情報システム委員会報告 (情報システム関連要領等の改正、授業支援システムの障害について、他)</p> <p>3) 第3回委員会（3月8日開催）</p> <p>(1) 退職予定教員を対象とした退職時に保有する非公開情報に関するリストについて</p> <p>(2) 新任教員へのオリエンテーションについて</p> <p>(3) 学術情報センター情報システム委員会の報告</p> <p>2. 情報セキュリティ研修会</p> <p>平成24年1月20日(月) 14:00-15:30</p> <p>羽曳野キャンパス B201 教室（遠隔中継）</p> <p>講演：「情報漏洩セキュリティとその対策」</p> <p>講師：板垣 克彦氏（日本総合研究所）</p>
来年度の課題	<p>・情報セキュリティポリシーを周知徹底させる。</p>
その他 人員構成等	<p>・学術情報センター情報システム委員会委員が学部・情報システム委員会の委員長、各領域のシステム管理担当者が委員を兼ねており、大学の情報セキュリティポリシーの運営と学部の委員会活動が連動するように配慮している（平成19年度より）。</p>

委員会名	部局評価・企画実施委員会
目的	委員会は、次に掲げる事項について審議する。 (1) 自己点検・評価の実施に関し必要なこと
構成員	高見沢学部長、中山(美)教授(委員長)、高辻教授、青山教授、籠持教授、細田准教授、木村准教授、石田准教授、深山助教
活動概要	<p>1. 部局における活動</p> <p>1) 委員会の開催：4回</p> <p>議題：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度年報の作成に関すること ・平成20、21、22年度自己点検評価報告書の作成に関すること ・看護学部における改善を要する事項に対する取り組みに関すること <p>2) 平成22年度年報</p> <p>平成24年1月末に完成し、看護学部全教員および看護系大学に配布した。</p> <p>3) 平成20、21、22年度自己点検報告書</p> <p>全学部の自己点検報告書を大阪府立大学のHPに公開した。また、看護学部の自己点検報告書は次年度前期に公開する予定である。</p> <p>4) 平成23年度年報に関すること</p> <p>年報の校正の検討、執筆の依頼を行い、原稿の校正を行っている。</p> <p>2. 大学全体における活動</p> <p>1) 自己点検評価報告書</p> <p>全学の自己点検評価報告書を完成させ、公表した(8月)。</p> <p>2) 看護学部における改善を要する事項に対する取り組み</p> <p>改善の要請と評価</p>
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度の年報の完成および評価 ・今後の大学全体としての業績評価や自己点検等のあり方により、委員会の活動を考慮する必要がある

委員会名	人権・ハラスメント委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 人権問題の教育に関すること</p> <p>(2) 人権問題の啓発及び防止・対策等に関すること</p> <p>(3) 人権問題についての諸機関との連絡に関すること</p> <p>(4) その他人権問題に関し必要なこと</p>
構成員	高辻学系長、簗持教授（委員長）、階堂教授
活動概要	<p>講演会参加の促進、人権に関わる必要な事項が生じた際の審議、対処という活動計画を立案した。本年度、学部として対処すべき人権に関わる問題は生じておらず、人権やハラスメント問題に対する意識の高揚と教職員学生の見識を深める目的で、教員や学生に2回の講演会を開催し、参加の促進を図った。全学人権・ハラスメント委員会から要請のあった参加目標人数（3名）を目安に参加を要請し、1回目は教員4名、大学院生2名、2回目は教員3名が参加した。</p> <p>1. 講演会「大学におけるハラスメント問題の理解予防～カウンセラーの視点から」</p> <p>1) 日時 平成23年12月26日(月) 14:35～16:05</p> <p>2) 場所 羽曳野キャンパス L305 講義室（遠隔中継）</p> <p>3) 講師 京都大学カウンセリングセンター 教授 教育学博士、臨床心理士 杉原保史 氏</p> <p>2. 講演会「労働にみる女性の人権」</p> <p>1) 日時 平成23年2月17日(金) 12:55～14:25</p> <p>2) 場所 羽曳野キャンパス L305 講義室（遠隔中継）</p> <p>3) 講師 大阪府立大学人間社会学部教授 伊田久美子氏</p>
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会への参加教員目標数を満たすことができ、大学院生も参加することができた。本年度の講演会の実施は1回目は実習終了後の設定であったが、講演会開催のアナウンスが直前で、参加の日程調整が難しい教員もあった。講演会のアナウンス時期や方法の工夫が課題である。 ・必要時学部の相談員と委員会の連携を図っていく必要がある。

委員会名	広報委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) パンフレット等の作成に関すること</p> <p>(2) ホームページ等の広報に関すること</p> <p>(3) 各号の掲げるものの他、広報活動に関すること</p>
構成員	<p>田中(京)教授(委員長)、星教授(副委員長)、堀井教授、佐保准教授、古谷助教、池内助教、羽畑助教、今川助教(9月まで)、看護学部支援スタッフ・新子(事務)</p>
活動概要	<p>広報委員会では、原則として月1回の会議開催をおこない、必要時臨時会議およびメール会議を行った。主な活動内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護学類紹介パンフレットの作成 <p>新学域・学類体制への移行に伴い看護学類パンフレットを新たに作成した。パンフレット作成にあたっては、授業風景等の撮影を新たに行うと共に、教務委員会等の協力を得て新カリキュラムの体系図を作成し、カリキュラム一覧と共に掲載した。また、高校生が閲覧することを念頭に置き、サークル活動の記載内容を充実させた。</p> 地域保健学域紹介パンフレットの作成 <p>新学域・学類体制への移行に伴い、なかもず広報課と協力して地域保健学域のパンフレットを新たに作成した。関係領域の教員の協力を得て、看護学類に関する記載内容を精選させると共に、写真のレイアウトを決定した。</p> 大学院紹介パンフレットの内容更新 <p>看護学研究科を紹介するパンフレットの内容更新を行い、5月中旬に発刊した。</p> キャンパスガイド2012の内容刷新 <p>新学域・学類体制への移行に伴い、地域保健学域および看護学類、看護学研究科に関する記載内容の一部を新たに作成した。</p> Webページ(学部・大学院)およびモバイルサイトの内容更新 <p>看護学部ホームページ(Webページ・モバイルサイト)において、オープンキャンパス・入試ガイダンスをはじめとする学内行事・イベントの広報活動を行った(随時/月)。</p> 教員個人ページの更新 <p>看護学部の教員紹介ページの内容更新を行った。</p> 看護学類Webページの新規立ち上げ <p>新学域・学類体制への移行に伴い、現行の看護学部Webページと並行して新たに新学類のWebページを作成する必要性が生じたため、ページ構成およびデザインを検討し、平成24年3月に立ち上げる予定で活動している。</p> 地域保健学域のWebページ新規立ち上げ協力 <p>新学域・学類体制への移行に伴い、なかもず広報課と協力して、大学全体のWebページの構成、内容について情報提供を行った。</p> 入試広報活動への参加協力 <p>入試委員会が企画したオープンキャンパス・入試ガイダンス活動に広報委員として参加協力を行った。</p>

	<p>10. Webサイトアクセスレポートの分析</p> <p>看護学部HP訪問者数の動向を知るために、月ごとのWebサイトアクセス状況について年間の動向を分析した。</p>
<p>来年度の課題</p>	<p>従来の活動に加えて、平成24年度より新学域・学類体制がスタートするため、それに関する広報物の更新を併せて行う。</p> <p>○大学院紹介パンフレットについては、CNSコース38単位教育課程の開始に伴って内容を刷新し、5月下旬完成を目指す。</p> <p>○看護学類紹介パンフレットについては、6月完成を目指す。</p> <p>○なかもず広報課と協力の下に、地域保健学域紹介パンフレットおよびキャンパスガイド2013の内容更新を行う。</p> <p>○Webページについては、看護学部ページと看護学類ページを並行させて運用する。それに伴い双方のページについて定期的な更新を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な内容が適切な時期にアップできるように、学内からの情報提供を募っていく。特に各委員会活動のタイムリーな情報取得が課題である。 ・教員個人ページの更新を4月当初に行う。 ・地域保健学域のページについては、なかもず広報課と協力して内容の更新を行う。 <p>○モバイルサイトについては、看護学部ページを看護学類のページ移行することを検討する。</p> <p>○オープンキャンパス・入試ガイダンス活動に協力・参加する。</p>
<p>その他 人員構成等</p>	<p>年度途中で委員の退職があったが、メンバー間の協力で乗り越えることができた。質的な面では、各領域の委員がいること、入試、教務、学生委員を兼ねた教員が広報委員であることが望ましい。入試広報部会に出席する委員は、入試委員会の委員を兼ねた方が情報の伝達がスムーズにいく。事務関係者の存在は、活動の活発化に繋がっている。</p>

委員会名	研究倫理委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 教職員及び看護学研究科学生が行う人間を対象とする研究の倫理審査に関すること</p>
構成員	<p>高見沢学部長、青山教授（委員長）、楢木野教授（副委員長）、垣本教授、長畑教授、佐保准教授、佐藤准教授、</p> <p>入矢事務所長（羽曳野キャンパス）</p> <p>川瀬委員（学外委員）、伊藤委員（学外委員）、小山委員（学外委員）</p>
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 平成 23 年度は研究倫理委員会として、合計 6 回の委員会を開催し 81 件の倫理審査申請書を審議した（博士前期課程－28 件、博士後期課程－15 件、教員－38 件）。なお、外部より学部生等対象のアンケート依頼の審議は 6 件であった。 研究倫理への意識向上と審査をスムーズに進行させるために、1 年間の試行期間を経てチェックリストを確定した。 組織改革に伴い、委員会の名称を「看護学部研究倫理委員会」より「看護学研究倫理委員会」へと変更した。 委員会名称の変更に合わせて、下記の書類の文言、書式等を見直した。 <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理審査申請書（様式第 1 号の 1） ・研究倫理審査申請書（様式第 1 号の 2） ・研究倫理審査について ・研究倫理委員会への審査書類の記入要領 研究倫理に関するオリエンテーションを、院生、教員を対象に平成 23 年 4 月 11 日に実施した。
来年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理審査申請書の件数は大幅な増加を見られないが、1 回あたりに要する時間が長く、効率化する必要がある

委員会名	年次計画達成戦略委員会 (公立大学法人大阪府立大学計画作成ワーキンググループ)
目的	公立大学法人大阪府立大学の中期計画及び年度計画の作成・管理について検討を行う。 (部局・学部において検討)
構成員	高見沢学部長、中村教授(委員長)、田中(京)教授、細田准教授、岡本准教授、和泉准教授、伊藤助教、角野助教
活動概要	大学の計画制作ワーキングの看護学部の下部組織として活動している。 中期計画に基づく年度計画の実施状況の取りまとめと計画作成を実施している。 1. 平成 23 年度計画実施状況のとりまとめ 2. 平成 24 年度計画の作成 3. 平成 23 年度計画業務実績報告書作成
来年度の課題	平成 24 年度は、年度評価の見直しと地域保健学域としての取りまとめなどが新しい取り組みとして加わる予定である。 看護学類としての年度計画の検討を要する。

委員会名	大学院看護学研究科附置研究所 療養学習支援センター運営委員会
目的	<p>第1条 この規程は、大阪府立大学大学院看護学研究科規程(平成17年公立大学法人大阪府立大学規程第61号)第6条第2項の規定に基づき、療養学習支援に関する研究・教育・実践を推進するとともに、その成果を地域に還元し看護の質の向上に寄与するため、大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター(以下「センター」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。</p> <p>(業務)</p> <p>第2条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。</p> <p>(1) 療養学習支援の研究・教育に関すること</p> <p>(2) 療養学習支援の実践に関すること</p> <p>(3) 療養学習支援に関する情報の提供に関すること</p> <p>(4) 療養学習支援に関する学術交流に関すること</p> <p>(5) その他センターに関し必要なこと</p>
構成員	高見沢学部長(センター長)、中村教授(主任)、中山(美)教授、籬持教授、杉本教授
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクト研究・活動助成 <ul style="list-style-type: none"> ・研究3件、活動2件、助成なしの活動4件 ・活動報告会の開催 平成24年3月7日(水) 2. 広報活動 <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの制作(1200部)、ホームページへの掲載 3. 健康フェア開催 <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年10月23日(日)に開催、地域住民など50名が参加 ・身体計測、握力、骨密度、体組成、動脈硬化度などの測定、健康相談、健康体操を実施 4. 年報制作 <ul style="list-style-type: none"> ・350部、看護系大学協議会加入校などに送付 5. 闘病記文庫 <ul style="list-style-type: none"> ・羽曳野図書センターに委託。新刊図書の選書、購入 6. その他 <ul style="list-style-type: none"> ・センター倉庫の整理 7. 運営委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の開催は10回
来年度の課題	<p>備品の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院イニシアチブ等で購入した備品のメンテナンス 研究、地域貢献活動で使用するための整備を行う

委員会名	領域主任教授会
目的	次の事項について検討を行う。 (1) 教員の教育、研究、社会貢献、学部運営における活動に関すること (2) 予算の管理に関すること (3) 各領域間の調整に関すること (4) その他領域の運営に関すること
構成員	高見沢学部長、高辻教授、星教授、上野教授、町浦教授、田中(京)教授
活動概要	開催状況：毎月2回のペースで開催した。(定例21回、臨時2回) 検討事項： ・領域主任教授会規定に基づき、教授会、研究科会議の検討事項のうち、事前検討の調整が必要なものについて検討した。 (役割の担当) 人事：高見沢、高辻、上野 予算：星、町浦、田中 施設・設備：高辻 学生関連：上野 ・平成23年度は通常の人事管理、予算管理以外に、助教の内部昇任に関する基本方針、大阪府立大学再編に伴う看護学類の教育課程、看護学研究科博士前期・後期の教育課程、看護学研究科の臨床実習指導教授等の称号付与規程、教員業績評価の評価指標などを検討した。
来年度の課題	・府立大学全体の方針に基づきながら、看護学類の教育課程、運用上の問題を解決する。 ・看護学研究科における高度実践看護師教育を充実する。 ・看護学類及び看護学研究科のディプロマポリシーを検討する。

委員会名	羽曳野図書センター運営委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 図書センターの運営に関すること</p> <p>(2) その他、図書センターの重要な事項に関すること</p>
構成員	<p>桑名教授（委員長）、林田准教授、伊藤助教、山田助教</p> <p>総合リハビリテーション学部教員 4名</p>
活動概要	<p>1. 月に1度の運営委員会開催</p> <p>○学術情報センター図書委員会における審議事項等の報告及び 羽曳野図書センターとして対応すべき検討事項の審議</p> <p>○羽曳野図書センターの運営に係る事項の検討</p> <p>2. 主な活動内容</p> <p>1) 図書カレンダー 開館時間、休館日の承認</p> <p>2) 貸し出し冊数、期間の検討</p> <p>3) 電子ジャーナルの検討</p> <p>4) 図書館利用に関するアンケート</p> <p>5) 選書会議</p> <p>6) 学生選書委員の選出</p> <p>7) 購入雑誌の中止検討</p> <p>8) オープンキャンパスにおける厚生棟のツアー企画</p> <p>9) 学外文献複写サービス</p> <p>10) 新入生に推薦する100冊 選書</p> <p>11) ライブラリーラウンジの開設</p> <p>12) 委員会諸規定の見直し</p> <p>13) その他</p>
来年度の課題	<p>1. 図書センター運営委員会が、図書館委員会の下部組織である専門部会として位置づけられることにより生じる課題</p> <p>2. カウンター業務委託の業者が平成24年4月に変更の可能性あり</p>

委員会名	羽曳野キャンパス感染対策委員会
目的	<p>委員会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学生及び教職員の完成予防対策に関する事 (2) 感染予防対策実施の監視と指導に関する事 (3) 感染症発生後の適切な事後処理に関する事 (4) 感染症発病者の人権擁護に関する事 (5) 学外実習施設等との連絡調整に関する事 (6) その他感染予防に関し必要と認められる事項に関する事
構成員	<p>垣本教授（委員長）、堀井教授、佐藤准教授、田中(結)准教授 総合リハビリテーション学部教員4名 萩原看護師（健康管理センター分室）</p>
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新型インフルエンザ（A/H1N1）に伴う欠席の取り扱いについての審議 2. 健康管理センターからの報告受けと示唆、学部長報告 3. 学生の健康管理手帳へのコメント 4. 健康管理センターの啓発活動への技術的支援 <p>その他、特に感染流行など問題はない。</p>
来年度の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. インフルエンザを含む新興・再興感染症の流行状況の情報収集 2. 学生・教職員への感染予防啓発（健康管理センター分室との連携）

第4章 学生の受け入れ

1. 看護学部（看護学類）

1) 入学者受け入れの方針

(1) アドミッション・ポリシーとその周知方法

「看護学部入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」を平成16年度に制定したが、学域・学類入試への変更にともない、具体的に3項目の選抜方針を追加した「看護学類入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」を平成23年度に制定した（資料4-1-1-1）。

資料4-1-1-1 看護学類入学受入方針（アドミッション・ポリシー）

看護学類入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

少子化、高齢化、国際化など社会構造の変化と国民のニーズの多様化、医療の高度化、専門化を背景に、わが国の看護・医療は大きく変わりつつあります。その中で看護職の占める役割はますます重要になってきています。看護学類では生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし豊かな人間性を形成するとともに、看護の専門的知識・技術をもって社会ニーズに応えて、幅広い分野で活躍できる看護専門職者を育成し、人々の健康の維持・増進に寄与するとともに国際社会に貢献できる人材の育成を目指しています。したがって、看護学類では次のような学生を求めています。

- ①人間の喜び、苦しみ、痛みを分かち合え、生命の尊厳について理解しようとする姿勢をもった人
- ②幅広い学問分野に支えられた専門的な看護に必要な知識・技術を主体的、積極的に修得できる高い基礎学力をもった人
- ③保健・医療・福祉などの場において他のヒューマンサービスを提供する人々と連携することのできる柔軟性を有しリーダーシップのとれる人

以上にに基づき、看護学類の教育理念・目的にふさわしい学生を受け入れるため、次の1～3の能力や適性をもつ学生を選抜します。

- 1 高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、高い基礎学力を有していること
- 2 他者理解とコミュニケーションの基礎となる国語能力を有していること
- 3 英文を読んで理解し、英文で表現するための基礎的な能力を有していること

看護学類（2年次編入学試験は看護学部）の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）については、下記の通り、選抜要項や募集要項に掲載したほか、Webページや携帯サイト上にも掲載して公表に努めた。

- ① 平成24年度入学者選抜要項（pp. 5-6）
- ② 平成24年度学生募集要項（一般入試）（pp. 5-6）
- ③ 平成24年度学生募集要項（2年次編入学試験）（p. 1）
- ④ 平成24年度（2012年度）推薦入学学生募集要項（p. 1）
- ⑤ 平成24年度（2012年度）外国人留学生特別選抜学生募集要項（p. 3）
- ⑥ Webページ（URL：http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/kango_gakurui/policy.html）
- ⑦ 携帯サイト（URL：<http://osakafu-u.ac.jp/osakafu-u/>）

「平成24年度学生募集要項(2年次編入学試験)」は近畿圏の158の大学・学部へ送付し、「平成24年度(2012年度)推薦入学学生募集要項」は、大阪府内の高等学校267校へ送付した(出願の多い学校へは3部送付)。平成23年8月6日・7日に開催したオープンキャンパス(高校生他の学生1046名、保護者他375名参加)、平成23年10月22日に開催した入試ガイダンス(高校生他の学生73名、保護者他30名参加)では、学部説明の中でアドミッション・ポリシーについて説明し、募集要項等の資料の配布を通して周知の機会とした。

(2) 一般選抜入試

大学入試センター試験については、前期日程、後期日程ともに、平成17年度より5教科6科目としてセンター試験の配点を800点とした。アドミッション・ポリシーの「国際社会に貢献できる人材の育成」の観点から、センター試験では外国語(英語)のリスニングテストを課している。

個別学力検査については、同じくアドミッション・ポリシーの「国際社会に貢献できる人材の育成」の観点から、平成20年度入学者選抜より前期日程試験において新たに外国語(英語)を加え、試験時間60分、配点100点とした。前期日程の小論文試験では試験時間を90分、配点200点とし、アドミッション・ポリシーの「幅広い学問分野に支えられた(中略)高い基礎学力を持った人」の選抜に努めた。後期日程の小論文試験では試験時間120分、配点300点とし、「人間の喜び、苦しみ、痛みを分かち合え、生命の尊厳について理解しようとする姿勢をもった人」を選抜するために、人間理解に絞った問題とした。

前期日程試験はセンター試験800点、小論文200点、外国語(英語)100点の計1100点で、また後期日程試験はセンター試験800点、小論文300点の計1100点で判定を行った。

(3) 特別選抜入試

①外国人特別選抜(留学生)

平成17年度から新たにTOEFLを課した。選抜方法は小論文試験、面接試験、日本留学試験の成績、成績証明書、TOEFLで総合的に判定する。募集人員は若干名である。また、平成19年度から出願資格に次の3点を付加している。

- 1) 日本留学試験の「日本語」の得点が220点以上
- 2) 日本留学試験の「理科」と「数学(コース1またはコース2)」の合計得点が200点以上
- 3) TOEFLの得点がPBT: 450点、CBT: 133点、iBT: 45点以上。

②2年次編入学試験

看護師・保健師・助産師を志す多様な人材を受け入れるために2年次編入学試験を実施している。出願資格としては、学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び平成24年3月に卒業見込みの者等を条件としている。小論文試験と面接試験については、アドミッション・ポリシーを反映した内容としている。入学者の選抜は、筆記試験、面接試験の結果及び出願書類を総合的に判定して行っている。

③推薦入学試験

出願できるのは、「調査書の全体の評定平均値4.0(5点満点)以上である者」「看護学に関する知識と技術の修得に熱意をもち、学力、人物ともに優れ、出身学校長が責任をもって推薦する者」等の条件に該当する者である。1高等学校等で推薦できる人数は、大阪府内の高等学校等は3名以内、その他の高等学校等は1名としている。入学者の選抜は、小論文試験(英文資料の読解を含む)、面接試験の成績、調査書及び推薦書等を総合的に判定して行っている。

2) 入学者選抜の実施体制

入学試験に関する企画と適性かつ円滑な実施を図ることを目的として、看護学部入学試験委員会が設けられている。委員会は学部長を委員長とし、教育研究会議委員、教授会が選出した教授 5 名、教授会が選出した教員 2 名、羽曳野キャンパス事務所長、その他委員会が必要と認める者から構成され、平成 23 年度は 11 名で運営された。さらに、入学試験に関して、大学全体の全学入試運営委員会、入学試験あり方部会、出題採点部会、入試広報部会にも学部の入試委員が参加することで、大学全体との調整を図った。

試験実施は入試委員を中心とする教員が試験監督、面接試験委員を務め、事務担当者が試験会場の設営、入試事務に関する業務を行った。試験当日の実施について、担当者に対しては必ず実施に関するオリエンテーションを行い、担当業務が責任を持って正確に行われるよう確認した。試験実施に関して、受験生からの試験に関するクレーム等は全くなかった。平成 23 年度の 2 年次編入学試験（9 月 3 日実施予定）は、台風 12 号の影響で大阪府域に暴風警報が発令されたため翌 4 日に延期となったが、編入学試験の取扱いを大学の Web ページに速やかに掲載し、また受験生への電話連絡と対応を適切に行ったため問題なく実施された。

合格者の決定については、試験の種類により決められた選抜基準に基づき、入学試験委員会において合否判定資料案を作成した後、教授会の審議により合格者を決定した。

3) 入学者受け入れの現状

平成 24 年 4 月入学者の現状を次に示す。ほぼ募集人員通りである。

資料 4-1-3 平成 24 年 看護学類入学者（※2 年次編入学のみ看護学部入学者）

	選抜方法等	募集人員 (名)	入学者数 (名)
一般選抜	前期日程	50	53
	後期日程	15	13
特別選抜	外国人特別選抜	若干名	0
	2 年次編入学※	10	9
	推薦入学	55	55

2. 看護学研究科

1) 入学者受け入れの方針

(1) アドミッション・ポリシーとその周知方法

「看護学研究科入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」（資料4-2-1-1）を平成16年度に制定した。

資料4-2-1-1 看護学研究科入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

看護学研究科入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

看護学研究科は、多様化、複雑化、高度化する社会環境の中で、生命と人権の尊重を基盤として、看護に求められる社会的使命を遂行し、看護学を実践的・創造的に発展させ、地域社会および国際社会のあらゆる健康レベルの人々に貢献できる高度な看護分野の実践者、管理者、教育者、研究者を育成することを目指しています。

●前期課程

博士前期課程では、人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な実践能力を有する人材を育成することを目指しています。このような目標を達成するため、博士前期課程では入学者に次の3点を求めます。

- ①看護倫理に基づく看護・看護学へのコミットメントを有していること
- ②論理的思考力や課題探求力と併せて、専攻する学問分野の専門的基礎および応用能力と国際的関心を有していること
- ③高度専門職業人として、看護実践ならびに看護学の発展に貢献する意欲を有していること

●後期課程

博士後期課程では、豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進してその深奥を究め、自立して研究活動を行うことができる能力を有する人材を育成することを目指しています。このような目標を達成するため、博士後期課程では入学者に次の3点を求めます。

- ①探究心旺盛で創造的に看護の視点から自立して研究に取り組む姿勢を有していること
- ②専門分野について深い基礎および応用能力を有し、多様な学問分野への高い関心と国際的な視野を備えていること
- ③豊かな人間性ととともに、看護の社会的認知を高め看護学ならびに看護実践・教育の発展に貢献する熱意を有していること

看護学研究科の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）については、下記の通り、募集要項に掲載したほか、Webページ上にも掲載して公表に努めた。看護学研究科の学生募集要項は、看護系の大学(106件)や病院(226件)に対して送付している。

- ① 大阪府立大学大学院看護学研究科学生募集要項 (p.1)
- ② Webページ (URL: http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/gra_top.html)

(2) 入学試験

博士前期課程では外国語（英語）、専攻科目、面接試験を実施し、専攻科目試験はきめ細かく適性を判断するために各領域・分野ごとの出題としている。博士後期課程では外国語（英語）、専門科目（全分野共通）、口述試験を行っている。いずれもアドミッション・ポリシーに見合う専攻科目・専門科目と面接試験・口述試験を実施している。

2) 入学者選抜の実施体制

研究科の入学試験についても、看護学部入学試験委員会において企画とその実施が適性かつ円滑に行われるような体制が整っている。平成23年度は前期課程と後期課程で第2次募集が行われたが、問題なく入学試験は実施された。

3) 入学者受け入れの現状

平成24年4月入学者の現状を次に示す。ほぼ募集人員通りである。

資料4-2-3 平成24年 看護学研究科入学者

看護学研究科		募集人員（名）	入学者（名）
	博士前期課程	26	24
	博士後期課程	5	4

3. 科目等履修生制度、研究生の受け入れについて

看護学部では、高等学校を卒業した者またはそれと同等以上の学力があると認められた者が看護学部の授業科目を履修することのできる科目等履修生を毎年度、前期・後期の計2回募集している。平成23年度は1名の科目等履修生を受け入れた。

看護学研究科では、看護系大学院修士課程又は博士前期課程を修了した者が、看護学研究科の講義科目を履修することのできる科目等履修生を毎年度、前期・後期の計2回募集している。また大学卒業見込み又はこれと同等以上の学力があると認められた者が研究について指導を受けることのできる大学院研究生を毎年度、前期・後期の計2回募集している。平成23年度は2名の科目等履修生と2名の大学院研究生を受け入れ、専門的学術を教授し、健康と福祉の向上に寄与する研究を指導した。

第5章 教育内容及び方法

1. 教育課程の編成・授業科目の内容

1) 看護学部

看護学部では、生命の尊重と個人の尊厳を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、科学的専門知識・技術を教授し、看護を総合的な視野で捉えられる人材を育成することを教育目的とし、これを達成するために教育課程が編成されている。その編成は、幅広い教養を身につける「教養科目・基盤科目」、看護学の基盤教育としての「専門支持科目」、看護学の「専門科目」からなる。教養教育は、大阪府立大学全体の教養教育と基礎教育を担う総合教育研究機構が実施している。看護学の「専門科目」は、「人・環境支援看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」「看護の統合と実践」（平成20年度以前の入学生は「人・環境支援看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」「総合」）から構成している。

「教養科目・基盤科目」、「専門支持科目」、「専門科目」は、学習の順序性を考えて体系的に配置している（資料5-1-1-1,2）。「教養科目・基盤科目」は、主に1年次に配置し、国際的な視野で貢献できる能力を養う実用英語習得のための英語教育は1年次、2年次に配置している。「専門支持科目」は、主に1年次、2年次に配置し、からだの構造や機能、病態や疾病、チーム医療に関連する知識や能力等を理解するための科目等を開設している。

「専門科目」は、1年次から4年次に配置し、「人・環境支援看護学」「療養支援看護学」「生活支援看護学」「家族支援看護学」の専門領域別の科目では、看護に必要な知識と技術および科学的根拠に基づく問題解決能力を養う内容が含まれている。さらに、専門領域別の実習を1年次から4年次に配置し、保健・医療・福祉などの分野において、看護の実践能力および調整的能力を養う内容となっている。「看護の統合と実践」（平成20年度以前の入学生は「総合」）では、看護学への関心を深め、総合的な視野と看護学研究の基礎能力を養うための科目等を開設している。

また、平成18年度より転学部制度を導入し、南大阪地域の大学と南大阪コンソーシアムとして協定を結び、互換可能な開講科目について単位認定を可能にしている。

資料 5-1-1-1 看護学部 卒業要件 授業科目一覧 (4 年次生用)

卒業要件単位	科 目	必 修	選 択	計
	教養科目・基盤科目	10	20	30
	専門支持科目	24	4	28
	専門科目	59	11	70
	計	93	35	128

区分	授 業 科 目		授 業 時 間 数			卒 業 要 位		
	授 業 科 目 名	必 修	選 択	講 義	演 習		実 習	
共 通	教養科目					30 単位以上 (必修科目 10 単位 + 選択科目 20 単位以上)		
	生命倫理学	2		30				
	音楽と生活		2	30				
	造形と生活		2	30				
	家族社会学		2	30				
	心理学		2	30				
	医療と社会		2	30				
	医療と法		2	30				
	人間発達学		2	30				
	化学		2	30				
生物学		2	30					
共 通	基盤科目					羽曳野キャンパスで開講される科目		
	・健康スポーツ科学科目							
	健康・スポーツ科学演習 I		2	30				
	健康・スポーツ科学演習 II		2	30				
	・外国語科目 (英語を除く)							
	中国語基礎 I		2	30				
	中国語基礎 II		2	30				
	朝鮮語基礎 I		2	30				
	朝鮮語基礎 II		2	30				
	・一般情報科目 (選択)							
情報基礎 A I (情報社会と情報倫理を含む)		2	30					
情報基礎 A II		2	30					
教 育 科 目	・外国語科目 (英語)					中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目		
	英語 A I	2		30				
	英語 A II	2		30				
	英語 D I	2		30				
	英語 D II	2		30				
	(1 年次中百舌鳥開講科目・水曜日分)							
	教養科目							
	哲学と思考		2	30				
	現代の歴史		2	30				
	生物と人間社会		2	30				
哲学と人生		2	30					
都市と環境		2	30					
自然科学の歴史		2	30					
数理学のトピックス		2	30					
比較文学の世界		2	30					
文学と社会		2	30					
現代社会と倫理		2	30					
自然科学への招待		2	30					
現代日本経済入門		2	30					
自然における右と左の関係		2	30					
憲法		2	30					
歴史学の現在		2	30					
世界の文学		2	30					
社会と思想		2	30					
ジェンダー論への招待		2	30					
数学の手法		2	30					
現代社会と障害 A		2	30					
人間学入門		2	30					
アイデンティティと文化		2	30					
現代文化論		2	30					
法と社会		2	30					
現代社会と障害 B		2	30					
文学の基礎		2	30					
現代の地域を考える		2	30					
暮らしと法律		2	30					
人権問題論 A		2	30					
変容する社会と社会学		2	30					
情報とは何か		2	30					
国際文化の視点		2	30					
総合教養科目「環境と人間」		2	30					
宗教の諸相		2	30					
現代のドイツ		2	30					
暮らしと経済		2	30					
美術学入門		2	30					
物質と人間		2	30					
スポーツと臨床心理		2	30					
からだの科学		2	30					
問題群としての社会		2	30					
ゼミナール問題群としての社会		2	30					
ゼミナール日本文学の世界		2	30					
ゼミナール現代文化論		2	30					
ゼミナールアイデンティティと文化		2	30					
ゼミナール哲学と思考		2	30					
ゼミナール数理学		2	30					
ゼミナール鑑賞と研究		2	30					
専 門 科 目	基盤科目					中百舌鳥キャンパスで水曜日に開講される科目		
	・外国語科目 (英語を除く)							
	ドイツ語基礎 I		2	30				
	ドイツ語基礎 II		2	30				
	フランス語基礎 I		2	30				
	フランス語基礎 II		2	30				
	形態機能学 I		2	60				
	形態機能学 II		2	45				
	運動生理学		1	30				
	生化学 I		1	30				
病理学		1	15					
疾病・治療論 I		2	60					
疾病・治療論 II		1	30					
疾病・治療論 III		1	30					
医療遺伝学		1	30					
微生物学		1	30					
薬理学		1	30					
臨床心理学		1	30					
健康と社会・環境 I		1	30					
栄養学総論		1	30					
疫学		2	30					
保健情報学		1	30					
医療と社会福祉学		2	45					
行動科学		2	30					
人間工学		2	30					
コミュニケーション論		1	30					
チーム力動論		1	15					
チーム医療論		1	15					
総合リハビリテーション論		1	15					
カウンセリング		1	15					
専 門 科 目	看護学概論		2	30		70 単位以上 (必修科目 59 単位 + 選択科目 11 単位以上)		
	人・環境支援技術論		1	30				
	人・環境支援技術 I		1	45				
	人・環境支援技術 II		1	45				
	人・環境支援論		1	30				
	人・環境支援論：対人関係技法		1	15				
	人・環境支援論：管理/教育		1	30				
	医療環境と看護 △		1	15				
	人・環境支援看護学実習 I		1	45				
	人・環境支援看護学実習 II		2	90				
専 門 科 目	療養支援看護学概論		3	45		225 180		
	病態看護支援論		2	60				
	療養支援論		2	60				
	療養支援論：急性		2	60				
	療養支援論：慢性		2	60				
	感染看護論 △		1	15				
	療養支援看護学基本実習		5	225				
	療養支援看護学応用実習 ※		4	180				
	専 門 科 目	生活支援看護学概論		3	45			225 180 180
		生活支援論		2	60			
生活支援論：老年 I			1	30				
生活支援論：精神 I			1	30				
生活支援論：地域 I			1	30				
生活支援論：地域 II			2	60				
生活支援論：在宅			1	30				
生活支援論：老年 II			1	30				
生活支援論：精神 II			1	30				
災害支援看護論 △			1	15				
専 門 科 目	生活支援看護学基本実習		5	225		180 180		
	生活支援看護学応用実習 I ◎		4	180				
	生活支援看護学応用実習 II ◎		4	180				
	家族支援看護学概論		3	45				
	家族看護論		1	30				
	家族支援論：母性		2	60				
	家族支援論：小児		2	60				
	セクシュアリティと看護 △		1	15				
	家族支援看護学基本実習		3	135				
	家族支援看護学応用実習 ※		4	180				
専 門 科 目	基礎助産学		1	15		315		
	助産科目		1	30				
	助産診断技術学 I		3	90				
	助産診断技術学 II		1	15				
	助産管理		1	15				
	助産学実習		7	315				
	研究方法論		1	30				
	国際保健 △		1	15				
	ターミナルケア △		1	15				
	人権と医療 △		1	15				
出産・子育てと文化 △		1	30					
看護援助論 (eラーニング科目)		1	15					
総合研究		2	90					

[専門科目の選択科目]

※印から 4 単位を修得すること。

◎印から 4 単位を修得すること。

△印から 3 単位以上を修得すること。

1 年次中百舌鳥開講科目・水曜日分以外にも他の科目を修得すれば単位認定できる。
(自由選択枠等)

2) 看護学研究科

看護学研究科では、大阪府立大学大学院看護学研究科規程(規程第61号第3条)に基づき、専攻領域及び分野を定めている。

博士前期課程は、人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、広い視野に立って精深なる学識を修め、専門分野における教育研究能力、あるいは高度に専門的な実践能力を有する人材を育成することを目的とし、「人・環境支援看護学」「家族支援看護学」「生活支援看護学」「療養支援看護学」の4つの専門領域に修士論文コース、「家族支援看護学」「生活支援看護学」「療養支援看護学」の3つの専門領域に11分野の専門看護師(CNS)コースを設置している。さらに、職業を有している等の事情により、標準修学年限(博士前期課程2年)の大学院の教育課程の履修が困難な学生を対象に、標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修できる長期履修制度を設置している。教育課程の編成は、教育研究能力を修める「基盤教育科目」と、専門的な実践能力を習得する「専門教育科目」からなる(資料5-1-2-1)。「基盤教育科目」は、「理論看護学」「看護学研究法」等の必修科目、「調査研究処理法」「医療社会福祉学」等の選択科目、「専門教育科目」は専攻領域ごとの特論・演習・実習・研究で構成している。

博士後期課程は、豊かな学識を有し、看護学分野において学術研究を推進しその深奥を極め、自立して研究活動を行うことができる能力を有する人材を育成することを目的とし、「生活支援看護学」「療養支援看護学」の2つの専門領域を設置している。教育課程の編成は、「基盤教育科目」と「専門教育科目」からなり(資料5-1-2-2)、「基盤教育科目」は「看護学研究方法論」の必修科目、「生体科学研究方法論」「健康科学研究方法論」「看護理論開発方法論」等の選択科目、「専門教育科目」は専攻領域ごとの特論・演習・研究で構成している。

資料 5-1-2-2 看護学研究科 博士後期課程 標準履修課程表

区分	領域	授業科目	単位数		授業時間数		1年次		2年次		3年次	
			必修	選択	講義	演習	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基盤教育		看護学研究方法論	2	1	30	30	○					
		看護学研究方法論演習						○				
		生体科学研究方法論					1	15	○			
		健康科学研究方法論Ⅰ					1	15		○		
		健康科学研究方法論Ⅱ					1	15	○			
		健康科学研究方法論Ⅲ					1	15	○			
		看護理論開発方法論					1	15		○		
専門教育	生活支援看護学	看護技術・情報学特論		2	30		○					
		看護技術・情報学演習		2		60		○				
		看護管理・教育学特論		2	30		○					
		看護管理・教育学演習		2		60		○				
		母子健康看護学特論		2	30		○					
		母子健康看護学演習		2		60		○				
		家族健康看護学特論		2	30		○					
		家族健康看護学演習		2		60		○				
	地域・精神看護学特論		2	30		○						
	地域・精神看護学演習		2		60		○					
	在宅・老年看護学特論		2	30		○						
	在宅・老年看護学演習		2		60		○					
		生活支援看護学特別研究		6		270			○	○	○	
	療養支援看護学		急性療養看護学特論		2	30		○				
急性療養看護学演習				2		60		○				
慢性療養看護学特論				2	30		○					
慢性療養看護学演習				2		60		○				
がん療養看護学特論				2	30		○					
がん療養看護学演習				2		60		○				
感染療養看護学特論				2	30		○					
感染療養看護学演習		2		60		○						
	療養支援看護学特別研究		6		270			○	○	○		

2. 教育方法

1) 看護学部

授業形態は、学習効果を上げるために、「教養科目・基盤科目」「専門支持科目」は講義・演習、「専門科目」は講義・演習・実習で構成しており、授業時間の内訳は、講義 28.1%、演習 40.6%、実習 31.3%（平成 20 年度以前の入学生は講義 40.2%、演習 27.0%、実習 32.8%）としている。具体的な授業形態および指導形態の例として、「保健情報学」ではコンピュータを使用して情報処理の演習を行い、「解剖生理学Ⅰ、Ⅱ」（平成 20 年度以前の入学生は「形態機能学Ⅰ、Ⅱ」）ではビジュランを活用して授業を行っている。各領域の「支援論」などにおいては、少人数による対話・討論型授業を行っている。臨地実習では、病院、老人保健施設、保健所などの様々なフィールド型実習を行っている。さらに、平成 17 年度に採択された文部科学省による現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム「看護実践能力の獲得を支援する e-ラーニング」の教材を授業や実習に活用し、学習指導法を工夫している。

教育の目的に応じた成績評価基準は、大阪府立大学履修規程（規程第 78 号第 12 条 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94001481.html）、各科目の成績評価基準は、学生必携の授業科目概要に記載している。授業科目および臨地実習の成績評価および単位認定は、各科目の単位認定者が基準に従って実施している。成績評価に関する学生からの異議申し立ては、学生個人から学生グループ学部教務担当または当該科目担当教員に、口頭もしくは書面で行われている。卒業要件基準は、大阪府立大学看護学部規程に則り（規程第 54 号第 8 条）、卒業要件 128 単位、必修単位 107 単位（平成 20 年度以前の入学生は卒業要件 128 単位、必修単位 93 単位）としている。これは、学士課程の卒業者に、看護師および保健師の国家試験受験資格を与えるためである。その他に、助産師国家試験受験資格の取得を希望する学生に対しては、13 単位（平成 21 年度入学生からは 14 単位）の助産科目を開設している。入学前の既修得単位の認定は、大阪府立大学学則（規程第 47 号第 16 条）に則り、新入学者に対しては、本学入学前に他大学等で修得した科目は個別に審査し、卒業要件単位に認定している。2 年次編入の教養科目は生命倫理学以外の教養科目 28 単位を上限として個別に審査し、卒業要件単位に認定している。卒業認定は、卒業要件に照らし合わせて教授会でやっている。

2) 看護学研究科

博士前期課程の授業形態および指導形態は、修士論文コースでは講義・演習、専門看護師（CNS）コースでは講義・演習・実習で構成され、少人数教育を基本としている。講義では質疑応答を含めた対話・討論型授業、演習では情報機器の活用や実験、演習及び実習ではフィールド型授業などを行っている。さらに、学部の授業におけるティーチングアシスタント（TA）としての活動を通して、教育能力を高められるようにしている。

研究指導は、博士前期課程、博士後期課程ともに複数指導教員体制のもとで行い、主指導教員はテーマの選定及び研究方法の検討から論文作成までのすべてのプロセスを直接指導している。副指導教員は主指導教員と緊密な連携をとりつつ、指導にあたっている。論文審査のプロセスとして、博士前期課程では、研究テーマおよび研究計画書を研究科会議で審査し、研究倫理委員会の審査を経て、再度、研究科会議で最終承認する。修士論文・課題研究論文の審査は、研究科会議で選出された主査 1 名と副査 2 名以上で行い、研究科会議で最終承認を行う。博士後期課程では、研究テーマおよび研究計画書を研究科会議で審査し、研究倫理委員会の審査を経て、再度、研究科会議で最終承認する。2 年次には中間報告を行い、教員および他の大学院生の意見を広く求め、研究能力を育成する場としている。博士論文の審査は、研究科会議の全教員で行う予備審査、研究科会議で選出された主査 1 名と副査 2 名以上で行う本審査を経て、研究科会議で最終承認を行う。

修了要件及び成績評価基準は、大阪府立大学大学院看護学研究科規程（規程第 61 号第 10 条、第 15 条）に則り、

成績評価及び単位認定は、各科目の単位認定者が基準に従って実施し、修了認定は、研究科会議の議を経て学長が行っている。成績評価に関する学生からの異議申し立ては、学生個人から当該科目担当教員または学生グループ教務担当に、口頭もしくは書面で行われている。

3. その他

6 大学連携オンコロジーチーム養成プラン

—近畿圏のがん医療水準の向上と均てん化を目指した国・公・私立大学連携プロジェクト—

大阪府立大学大学院看護学研究科は、近畿大学、大阪市立大学、神戸大学、兵庫医科大学、神戸市看護大学の医学・看護学・薬学系大学院研究科とともに、平成19年度に文部科学省に「6大学連携オンコロジーチーム養成プラン—近畿圏のがん医療水準の向上と均てん化を目指した国・公・私立大学連携プロジェクト—」を共同申請し、採択された。本プロジェクトでは、6大学連携オンコロジーチーム養成プランに参画する看護学研究科・医学研究科・薬学研究科に属する看護師・医師・薬剤師などを対象に、共通特論I「腫瘍病態生物学」、共通特論II「臨床腫瘍学総論」、共通特論III「臨床腫瘍学各論」等を開講している。場所は、受講者が一堂に集まりやすい大阪市立大学医学部を使用している。

がんプロフェッショナル養成プランの本学研究科における一貫企画として、事例検討会を開催している。大学院専門看護師コース修了生の実践事例、コンサルテーション事例、コーディネーション事例、倫理調整事例などを検討することで、専門看護師認定審査に向けて適切な実践成果を導き出せる能力の発展、および実践報告書の作成ができることを目的としたものである。大学院を修了後、がん看護専門看護師として活動を行うにあたり、キャリア開発や専門的な看護実践の遂行、専門看護師としての役割開発について講演を行い、実践の場でがん看護専門看護師として役割遂行するための能力の発展を目指している。開催は月一回程度で、一回約2時間半、参加者は教員(教授、准教授、講師、助教)、大学院後期課程学生、大学院前期課程がん看護専門看護師コース修了生および在學生である。

第6章 学生支援

1. 学習支援

1) 看護学部

看護学部では、「教養科目・基盤科目」、「専門支持科目」、「専門科目」に属する科目群を有機的に連携させて学習効果を上げることを目指した授業科目概要を作成している。授業科目概要の構成は、担当者や配当年次、開講時期などの基本的な情報と、授業目標、授業の概要、試験・成績評価等の項目からなり、これらの定型化された書式に従って各教員が作成している。学習支援として、入学時および年度当初には履修ガイダンスを行い、成績評価基準、卒業認定基準、授業科目概要等を記載した学生必携を学生全員に配布し、履修指導を行っている。また、選考に基づき助産科目を履修することができ、その説明を入学時と3年次に実施している。さらに、学生が学習相談のために来室あるいはメールによる質問・相談ができるよう、授業科目概要には、授業科目ごとに、教員のオフィスアワーおよびメールアドレスを記載している。国家試験対策としては、教員のアドバイスのもと4年次の学生の代表が中心となって、国家試験の模擬試験を年4回（保健師1回、助産師0回、看護師3回）実施している。

学生の自主的学習を支援する環境は、羽曳野図書センター、情報科学演習室・視聴覚室、自習室等の施設整備に加え、携帯型のマルチメディア端末を用いたデジタル教材などを整備している。羽曳野図書センターの開館時間は、平日8時30分～21時、土曜日10時30分～19時で、AVブース・AVルーム等を使用することができる。さらに、看護に関する蔵書は日本でもトップクラスであり、他大学図書館との相互利用サービス、データベース・サービス等も充実している。図書館のガイダンスは、新入生および新採用教員へ年度当初に行うとともに、利用についても案内・周知している。情報科学演習室・視聴覚室は、基本的には授業時間を除く平日9時～20時に開放し、パソコンは情報科学演習室50台、視聴覚室34台を整備している。看護技術習得のためには、学内での各専門分野に応じた実習室を整備している。

学生相談を含む学生生活全般への支援は、1～3年次生10～12名に1～2名の教員、4年次生には総合研究を担当する教員が、アドバイザーとして履修上・生活上の問題について継続的に支援を行うアドバイザー制度がある。アドバイザーは、交流会・ミーティングの開催、メール配信や電話による状況把握、面接・個人指導の他、単位の実質化を推進するための指導等を行っている（資料6-1-1）。

資料6-1-1 アドバイザーグループ活動の状況

項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度
交流会・ミーティングの開催	19G (のべ31回)	24G (のべ35回)	21G (のべ31回)
メール配信による状況把握	28G	28G	27G
電話による状況把握	4G	4G	1G
面接・個人指導	24G	28G	26G
名簿・連絡先等の配布	18G	18G	19G
期末試験結果の把握	22G	23G	23G
家族への連絡・家族との相談	1G	6G	2G
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ写真配布 1G ・バイク通学申請の承認 1G ・学外での娯楽活動の承認 1G ・学外での娯楽活動 4G ・推薦状の記載 1G ・実習担当教員との情報交換 2G 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ写真配布 1G ・バイク通学申請の承認 1G ・学外での娯楽活動 2G ・推薦状の記載 1G ・NZ、東北地震の安否確認 3G ・養護教諭資格取得の集中講義の連絡 3G ・感染症での入院対応 1G ・外国留学の推薦状の作成 1G 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ写真配布 1G ・バイク通学申請の承認 2G ・実習担当教員との情報交換 1G ・提出書類未提出者への緊急連絡 1G ・中百舌鳥の臨床心理士への相談 1G
活動なし(4月当初のオリエンテーション期間の活動のみ)	6G	5G	7G

羽曳野キャンパス学内団体・サークルとしては、体育系13、文化系13の計26団体が活動している。学内団体・サークルは、自治会が交付する活動資金により活動し、教員が必ず顧問として関わるほか、教授会がサークルの新規申請を承認する前に、学生委員会で活動内容の妥当性について検討している。平成23年度は、文科系1団体、体育系1団体の新規登録が承認されている。サークル室は、図書厚生棟3階に整備しており、学内で施設を利用する場合は所定の書式で申請することにより、ほぼ全面的な施設利用が認められている。自治会活動に対する支援としては、集会室を図書厚生棟3階に整備し、活動資金は入学時に徴収される自治会費に加えて、後援会からの交付金に基づいている。

また、学習支援に関する学生のニーズをより詳細に把握するために、「学生提案箱・BOX21」を学生の目につきやすい事務所入口に設置し、投函された意見は、月1回学生グループ長が開封している。さらに、WEB学生サービスセンター(WEBSC)では、WEBSCサイトに「Web提案箱」を設置し、提案した学生に当日中に返信するとともに、寄せられた意見・提案および対応内容をWEBSCサイトで紹介している。平成23年度の学生提案箱とWeb提案箱の意見は5件である。その他、随時アドバイザーから、学生委員長、教務委員長、学部長等へ、学生のニーズに関する情報を報告している。

2) 看護学研究科

看護学研究科では「基盤教育科目」と「専門教育科目」に属する科目群を有機的に連携させて学習効果をあげることを目指した授業科目概要を作成している。授業科目概要の構成は、担当者や配当年次、開講時期などの基本的な情報と、授業目標、授業の概要、試験・成績評価等の項目からなり、これらの定型化された書式に従って各教員が作成している。学習支援として、入学時および年度当初には履修ガイダンスを行い、成績評価基準、修了認定基準、授業科目概要等を記載した学生必携を学生全員に配布し、履修指導を行っている。さらに、学生が学習相談のために来室あるいはメールによる質問・相談ができるよう、授業科目概要には、授業科目ごとに、教員のオフィスアワーおよびメールアドレスを記載している。

学生の自主的学習を支援する環境は、羽曳野図書館センター、情報科学演習室・視聴覚室のほか、看護学研究科大学院自習室、17台のパソコンを設置した大学院棟内情報処理室を整備している。

なお、学習支援に関する学生のニーズをより詳細に把握するための方法は、看護学部同様である。

2. 生活支援

看護学部および看護学研究科では、学生の生活や就職、経済面での援助に関する支援のほか、特別な配慮が必要な学生への支援やハラスメントに関する支援を行っている。

学生の健康相談は、保健室に配置された看護師1名が常勤で対応している。さらに、外科、産婦人科、精神科・心療内科の3名の学校医、内科の産業医1名との契約を結び、学生の健康管理と受診対応の体制をとっている。心理的問題に対応できる体制として羽曳野キャンパスカウンセリングルームでは、専門のカウンセラーによる対面相談のほか、WEB学生サービスセンター（WEBSC）所属の専門カウンセラーによるテレビ電話を用いた電話相談で対応している。平成23年度の年間相談件数（実数）は、対面相談8件、電話相談1件である。

学士課程の進路相談に関しては、年間5回の就職ガイダンスを計画的に実施している。さらに、大阪府立病院機構説明会の開催、4年次の希望学生を対象にした就職の模擬面接等を実施している。平成23年度の模擬面接の参加者は67名である。

奨学金制度および授業料減免は、学生ガイダンス、学生生活の手引、掲示板やパンフレットにおいて周知し、より詳細な情報を必要とする学生からの問い合わせや相談は、学生グループにおいて対応している。平成23年度の奨学金の応募は、学部40名、大学院17名の合計57名であり、日本学生支援機構奨学金では、第一種（無利子）、第二種（有利子）合わせて56名（学部40名、大学院16名）が採用された。

外国人留学生には、奨学金制度や授業料減免制度が外国人留学生枠で設けられている。アドバイザー制度により、外国人留学生寮の紹介・調整、アルバイトや書類手続き時のアドバイスなど、生活の支援体制を整備している。さらに、教員、先輩学生各1名で構成するチューター制度では、外国人留学生に対する学習支援体制も整備している。担当する先輩学生（チューター）は、学生委員会により選出され、一定の費用が支払われる。平成23年度の外国人留学生数は0名である。その他、特別な支援を行うことが必要と考えられる者は、現在のところ不在学していない。

各種ハラスメントに関する支援は、公立大学法人大阪府立大学ハラスメントの防止等に関する規程（規程第29号 http://www.osakafu-u.ac.jp/info/about/kitei/reiki_honbun/ax94000601.html）に則り、相談・助言体制を整備し、機能している。

なお、生活支援に関する学生のニーズをより詳細に把握するための方法は、学習支援と同様であり、学生の実情とニーズを把握したうえで、対処方法を回答している。

第7章 教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム

1. 評価

1) 学生による評価

(1) 授業評価アンケートによる学生の評価

学生による授業評価および学習環境や履修指導についての意見聴取および同データの公開は、Webによるポータルを用いて年2回定期的実施している。授業評価や意見聴取した内容は、今後の授業方法の検討に活用されることを意図して担当科目の教員にフィードバックしている。平成21年度に看護学部の授業評価アンケート実施科目のリストを作成し、以降毎年更新している。

授業評価アンケートの学生への周知については、実施期間中に講義等において、学生に回答を求める呼びかけを行い、アンケートへの回答を促す啓発ポスターを掲示した。その結果、前期のWeb回答率は2.36%と前年(1.76%)より上昇したが、後期では0.46%と依然低かった。またWebと並行して、マークシート(紙)による授業アンケート実施の希望を募り、看護学部においては前期に1科目で実施したところ、回答率は66.4%であった。

このように授業評価アンケートの回答率は、低い状態が続いている現状にある。看護学部においては、学生がポータル入力しやすい環境整備やマークシート方式併用の周知徹底に加え、自由記載欄への教員コメントを強化し、積極的にWebで公開することにより、アンケートへの回答率を上げていく必要がある。

(2) 学生による臨地実習評価

臨地実習については、実習科目毎に学生による評価を実施しており、その結果を担当教員はもとより、臨地実習連絡会などの機会に実習指導者にもフィードバックすることで、実習内容や実習環境の改善に役立てている。

評価項目毎に評価結果(平均)をみると、「授業で学んだ内容が実習を通してより深く理解できた。」と回答した者は98.4%、「対象者への理解を深め、その対象者に合う看護が展開できた。」と回答した者は89.3%であった。臨地実習の総合目的である「さまざまな健康レベル・健康障害にある人々に対して、既習の知識・技術・態度を実際の場面に適用し、理論と実践を統合して看護活動が展開できる能力を養う。」が概ね達成できていると考えられる。また、「教員は学生の必要に応じたアドバイス、指導、説明を行った。」と回答した者は86.4%、「指導者から適切な助言が得られた。」と回答した者は97.1%で、学生の学習ニーズに応えられる実習体制であったと考える。

2) 教員相互による評価

本学部では、教員相互によるピア授業評価を実施している。教員間のピア授業評価における被評価者の教員は、改善シートに今後改善すべき内容を記載し、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会に提出するとともに、視聴覚機器の活用、教材の工夫、授業のプリントの作成法、授業時の感想カードの提出法など、授業改善に努めている。

平成20年度において、ピア評価の対象を教授から講師に加え、助教も含めることを決定した。今年度は、平成22年度新採用の教授2名、助教6名が対象であった。ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員がピア評価担当委員として、ピア評価の実施、フィードバック日の設定、授業評価改善票の回収を行った。また、平成22年度より試行的に行ったピア授業参観について、平成23年度も引き続き実施した。ピア参観実施要項、ピア授業

参観実施手順を作成し、参観科目の提供呼びかけを年4回行い、12件の参観が実施された。

現教員のピア評価は一通り終了したため、今後の授業評価のあり方を検討した。ピア授業参観の意義と実施要項及び手順が教員に浸透してきたことを踏まえ、平成24年度からピア授業評価を廃止し、ピア授業参観のみの実施に一本化し、ピア授業参観の更なる強化を図っていくこととする。

3) 教員による自己点検評価

本学では、平成19年度から教員による教員活動自己点検報告を毎年実施している。本学部独自の評価項目として、教育活動、研究活動、社会貢献活動、大学運営に関して、「非常に積極的にいった」から「行わなかった」まで4段階で自己評価している。平成23年度在籍の教員のうち、退職教員、育児休業中等を除いた教員56名が教員活動自己点検評価を提出した。

教育活動の授業活動については、学部が掲げる教育目的のもと個々の授業目標に従った授業展開を、ほぼ全教員が非常に積極的または積極的に進めていた。さらに学部が掲げる教育目的に応じた授業内容、教材、教授技術等の改善を約90%の教員が非常に積極的または積極的に進めていた。学位取得に向けての研究指導活動もほぼ全教員が非常に積極的または積極的に進めていた。教育活動全般にわたり、大半の教員が積極的に教育活動を進めていた。

学術論文等による研究発表活動は、48%の教員が非常に積極的または積極的に進め、28%の教員が普通に行っていた。学術論文等による質の高い研究活動は、37.5%の教員が非常に積極的または積極的に進めていた。学会等における研究発表活動は、53.5%の教員が非常に積極的または積極的に進め、25%の教員が普通に行っていた。競争的資金獲得のため代表者として積極的に申請または申請した教員は71%（40人）であり、そのうち競争的資金を獲得した教員は42.5%（24人）であった。

府等の委員会・看護協会等の職能団体への参画は、41%の教員が非常に積極的または積極的に進めていた。看護学部に関係する府や職能団体の委員会への参画は、主に教授が依頼され活動しているため、参画していない教員の割合が高くなったと推測された。地域に密着した学習支援活動は、68%の教員が非常に積極的または積極的に進めていた。大学運営における各委員会活動はほぼ全教員が非常に積極的または積極的に進めていた。大半の看護学部教員が委員会活動に携わり、責務を果たし大学運営に尽力している結果が示された。

前年度の自己点検評価と比較すると、教育活動の授業活動、教育改善活動、研究指導活動のすべてにおいて、非常に積極的または積極的に活動している者が増加している。特に研究活動の競争的資金に関して、申請数は平成22年度より増加している。看護学部教員は、教育、研究、社会貢献活動全てにおいて、積極的に活動している者が多いといえる。

4) 卒業生による評価

本学部では、本学卒業生を対象としたアンケート調査を実施し、主として卒業学年を対象とした就職ガイダンスには、保健師、助産師、看護師として就職している卒業生から、教育に関する意見を聴取している。

平成23年度は看護学研究科修士課程から主に意見を聴取した。良かった点として、看護倫理や研究方法の習得ができたこと、広い視野で専門性の追求・分析力の向上ができたことがあげられ、要望としては大学院修了後の研究サポート体制の充実や日曜日の図書センターの開館の要望についての意見が出された。

2. 教育の質の向上及び改善のためのシステム

看護学部におけるファカルティ・ディベロップメント(FD)は、FD委員会を設置し取り組んでいる。FD委員会の主な活動としては、学生や教員のニーズや、社会の変化に対応した内容を検討して取り上げている。平成23年度の実施日及びテーマ、参加人数は、資料7-2 に示した。

FDによるセミナーは、大阪府立大学全体では5回、看護学部独自のものでは2回開催された。その内容は資料7-2 に示されているように教育改善に関するものであった。

資料7-2 平成23年度 FDセミナー

平成23年度 府大セミナー	<p>新任教員FDセミナー 日時：平成23年5月27日 講師：高等教育推進機構・星野 聡孝氏 他 出席人数：13名</p> <p>第1回FDセミナー テーマ「初年次ゼミナールとは何か？ーパイロット授業の経験からー」 講師：平成23年度前期パイロット授業担当教員 日 時：平成23年9月6日 出席人数：7名</p> <p>学生FDセミナー テーマ「白熱教室 in 大阪府立大学 ー高橋副学長に、よりよい学習環境づくりを問うー」 学生FDの先進事例及び参加報告とグループワーク 日 時：平成23年11月22日</p> <p>第2回FDセミナー テーマ：「学生と変える大学の教育」 講 師：立命館大学・木野 成氏 日 時：平成23年12月15日 出席人数：2名</p> <p>FDワークショップ テーマ「初年次ゼミの始まりを前にー書き上げたシラバスからもう一度考える」 ファシリテーターからの報告とグループワーク 日 時：平成24年1月24日 出席人数：1名</p>
平成23年度 看護学部セミナー	<p>第1回大阪府立大学看護学部FDセミナー テーマ：「平成生まれ世代との向きあいかたー変化する意識と変化しないマネジメントとの間でー」 日 時：平成23年8月25日 講 師：ライズコーポレーション代表取締役・岩間 夏樹氏 出席人数：99名</p>

第2回大阪府立大学看護学部FDセミナー

テーマ：「あなたの教育にかける思いを聞かせてくださいーティーチング・ポートフォリオの紹介ー」

講 師：大阪府立大学工業高等専門学校・北野 健一氏

日 時：平成24年3月9日

出席人数：38名

第8章 研究活動

1. 研究体制及び支援

研究の実施体制は、健康科学と看護学4領域の計5領域から構成されている。同組織への研究支援組織としては、羽曳野キャンパスの場合、総務課を中心とした事務職員および文献等の検索や収集のために羽曳野図書センターの司書などから、総合的・機能的に支援を受けている。

研究推進については、産学官連携機構から研究助成の広報・申請手続き・予算執行等、療養学習支援センターにおける地域社会との連携等が、組織的に行われている。コーディネーターが定期的に羽曳野キャンパスに来学し、研究助成に関する情報提供など支援を行っている。外部研究資金獲得に関して、文部科学省の科学研究費補助金の場合には経営企画課経理グループによる申請方法の説明会を行っているとともに、外部資金獲得に関するセミナーの開催なども実施している。このように研究が推進できるような施策が図られている。

研究資金の配分は、主任教授会において原案を作成し、教授会および研究科会議で決定する施策が実施されている。その他の支援としては、療養学習支援センターによる研究プロジェクトに対する研究助成（資料8-2-2）、研究者の育成に関する施策（新人教員に0.5～1.5倍の研究費が上乘せ）、共同研究の奨励研究の推進などがある。

看護学部および看護学研究科における独自の研究成果の発信や刊行のための組織として、広報委員会および紀要委員会があり、各教員の研究成果の概略をホームページおよび年1回発行する紀要で公開している。研究活動の状況を把握する取組として、各教員は毎年度末に教員活動情報データベースに自己の研究活動の申告を実施している。教員活動情報データベースは教員の個人情報に関する部分を除いて公開を原則としている。さらに、各教員は、教員活動自己点検・評価報告書を提出し、自己評価を行っている。これらは、部局評価・企画実施委員会が、看護学部教員全体の評価をまとめて報告している。

看護学部における研究活動の質の向上に関する取組としては、研究倫理委員会および動物実験委員会がある。研究倫理委員会では、教員および大学院生・学部学生の研究のうち、人を対象とした場合には学外の有識者を含む委員会において、研究倫理の審査で承認したものだけが研究を実施できるようになっている。実験動物を用いた研究については、動物実験ガイドラインが定められ、研究計画書を動物実験委員会に提出し、その審査を経たもののみが実施可能となる。このように倫理的に配慮した研究を支援するための研究倫理委員会、動物実験に関する委員会等が整備され機能している。

2. 研究実績

看護学部および看護学研究科の研究活動の実施状況と研究成果は、「資料 大阪府立大学看護学部教員業績一覧」に示した。学術論文の発表は40件、学会発表件数は94件であった。

競争的研究資金の申請・採択状況を資料8-2-1に示した。科学研究費補助金の新規申請は、32件であった。看護学部が独自に実施している研究助成として、療養学習支援センター研究・活動助成（資料8-2-2）、共同研究助成（資料8-2-3）がある。

特に療養学習支援センターでの研究活動状況は、療養学習支援センター年報第8巻に記述し、公表している。

資料8-2-1 平成23年度 看護学部の補助金の申請・採択状況

研究活動		新規申請件数	採択件数	継続件数	合計金額(円)	
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究 (A)	代表	0	0	0	
	基盤研究 (B)	代表	2	1	1	9,880,000
		分担	—	1	2	1,378,000
	基盤研究 (C)	代表	10	4	9	15,079,723
		分担	—	9	9	1,604,200
	萌芽的研究	代表	3	1	1	1,430,000
		分担	—	1	1	195,000
	若手研究 (B)	代表	8	4	1	5,720,000
分担		—	0	0	0	
奨励研究	代表	0	0	0	0	
その他 (若手研究スタートアップ 含む)	代表	9	3	1	5,303,938	
文部科学省受託研究	代表	—	1	0	1,870,000	
厚生科学研究費補助金	代表	—	1	0	1,000,000	
財団等の研究助成による研究	代表	—	4	0	2,750,000	
企業等による共同研究費	代表	—	1	1	230,000	
大学独自の助成による研究	代表	—	1	0	798,400	
その他	代表	—	2	0	1,525,000	

資料8-2-2 療養学習支援センター研究・活動助成一覧

No	区分	代表者	研究課題・活動名	助成額 (円)
1	研究助成	牧野裕子	在宅高齢者のための認知機能低下予防教室「脳いきいき教室」におけるアクティビティの評価	714,000
2		木村洋子	うつ病者家族を対象とした心理教育プログラムの実施と評価	186,000
1	活動助成	古山美穂	高等学校における生と性教育プログラムの実践と啓発活動	115,000
2		籠持知恵子	病気を管理しながら元気に生きることを応援する「ホット&ハートの会」	204,000
3		岡本双美子	家族への看護を考える会	298,000
合 計				1,517,000

資料8-2-3 共同研究助成

代表者	研究課題・活動名	助成額 (円)
藪下八重	専門看護師による倫理的看護実践支援の試みと評価	325,000

競争的資金の獲得状況として、科学研究費補助金については、採択件数は49件（40,590,861円）となっている。科学研究費補助金交付者一覧を資料8-2-4に示した。その他、財団による助成などがある。

資料8-2-4 平成23年度科学研究費補助金交付者一覧

(研究代表者)

研究種目審査区分	氏名	獲得金額(円)	研究課題名
基盤研究(B)	中村 裕美子	6,890,000	看護職のための再就職支援研修プログラムにおけるメンター機能システムの開発と評価
基盤研究(B)	高見沢 恵美子	2,990,000	急性心筋梗塞患者が必要とする周手術期医療情報と情報提供への看護介入
基盤研究(C)	榎木野 裕美	910,000	親の主体的な医療参画をめざした親・医療者協働プレバレーションシステムの開発と実践
基盤研究(C)	上野 昌江	1,040,000	児童虐待発生予防における養育支援が必要な子どもと家族の見極め指標と支援方略の開発
基盤研究(C)	長畑 多代	1,040,000	生活の場としての看取りを支える特別養護老人ホーム看護職への教育プログラムの開発
基盤研究(C)	篠持 知恵子	1,690,000	高血圧患者の塩分摂取測定を活用したセルフモニタリングの効果
基盤研究(C)	階堂 武郎	780,000	呼吸器疾患患者の増悪およびQOL低下に関連する気象要因
基盤研究(C)	鎌田 佳奈美	1,300,000	入院している被虐待児をケアするためのガイドラインの作成
基盤研究(C)	佐保 美奈子	1,300,000	身体的障がいを持つ子どもと家族へのセクシュアリティ支援に関する研究
基盤研究(C)	中嶋 有加里	1,170,000	妊婦と胎児・乳幼児の命を守るシートベルト着用推進教育プログラムの開発と評価
基盤研究(C)	和泉 京子	1,950,000	健康格差をふまえた国民健康保険加入者の壮年期から高齢期の継続的な支援方略の開発
基盤研究(C)	木村 洋子	649,723	うつ病者家族を対象とした心理教育プログラムの開発及び評価
基盤研究(C)	細田 泰子	780,000	実践的風土を創造する臨床学習環境デザイナー育成プログラムの構築
基盤研究(C)	山本 裕子	910,000	糖尿病診断後早期の患者のための学習支援教材の開発
基盤研究(C)	松本 智晴	1,560,000	DPCに対応した日本版Nursing Minimum Data Setの開発
若手研究(B)	岡本 双美子	910,000	在宅における終末期がん患者を看取る家族へのグリーフケアプログラムの臨床導入と評価
若手研究(B)	大川 聡子	1,950,000	10代で出産した母親のライフプラン構築を支援する包括的プログラムの開発と評価
若手研究(B)	根来 佐由美	1,170,000	水中運動実施者の皮膚機能・性状の実態と弱酸性水による予防的ケアの効果
若手研究(B)	山内 加絵	650,000	施設入所高齢者の健康管理のためのアセスメント指標の開発
若手研究(B)	森木 ゆう子	1,040,000	救急患者の家族に対する援助の困難さを克服するための教育プログラムの構築
研究活動スタート支援	岡崎 裕子	1,689,938	親と医療者の協働による幼児へのプレバレーションのための親アセスメントシートの開発
研究活動スタート支援	江口 恭子	884,000	認知症対応型通所介護施設におけるケア実践力向上アクションプランの作成
研究活動スタート支援	角野 雅春	1,560,000	慢性心不全患者のヘルスリテラシーに基づく症状マネージメント支援プログラムの開発
研究活動スタート支援	撫養 真紀子	1,170,000	一般病院に勤務する中堅看護師の職務満足を促進する教育プログラムの開発
挑戦的萌芽研究	町浦 美智子	780,000	分娩介助技術としてのハンズオフ手法の実態と根拠に基づく会陰保護の再検討
挑戦的萌芽研究	牧野 裕子	650,000	訪問看護・在宅ケアサービスにおける包括的危機管理体制の構築
合計		37,413,661	

(研究分担者)

研究種目審査区分	氏名	獲得金額(円)	研究課題名
基盤研究(B)	榎木野 裕美	78,000	プレバレーションの普及ーモバイルラーニングを応用した実践と評価ー
基盤研究(B)	杉本 吉恵	130,000	障害高齢者の自立支援に向けた「看護・介護のシーティング・ガイドライン」の開発
基盤研究(B)	和泉 京子	1,170,000	在宅虚弱高齢者に対する学際的予防訪問プログラムの効果と標準化の確立
基盤研究(C)	上野 昌江	5,200	自閉症スペクトラム障害に対するペアレントング・プログラムの確立に関する研究
基盤研究(C)	上野 昌江	39,000	すべての看護職が使える子どもの虐待予防活動のためのアセスメント指標の開発と効果判定
基盤研究(C)	榎木野 裕美	208,000	検査・処置を受ける幼児後期の子どもの調整能力の発揮への支援プログラム開発と効果測定
基盤研究(C)	榎木野 裕美	130,000	不妊治療後の母親のペアレントング・プログラムの開発と普及
基盤研究(C)	榎木野 裕美	39,000	すべての看護職が使える子どもの虐待予防活動のためのアセスメント指標の開発と効果判定
基盤研究(C)	町浦 美智子	325,000	更年期女性の健康促進に向けた行動変容を促す健康貯金ノートを用いた介入プログラム
基盤研究(C)	町浦 美智子	104,000	母親の子育てを支援する祖母のいきいきライフを促進する教育プログラムの実践
基盤研究(C)	町浦 美智子	130,000	月経前症候群のある女性のQOL向上を目指した呼吸法の有用性
基盤研究(C)	高見沢 恵美子	26,000	クリティカルケア領域における特徴的な皮膚障害の発生要因およびケア内容の検証
基盤研究(C)	高見沢 恵美子	65,000	心臓血管外科手術を受ける患者及び家族の手術意思決定サポートシステムの開発
基盤研究(C)	青山 ヒフミ	65,000	新人看護師の看護専門職業人としてのキャリア発達を促す教育支援プログラムの開発
基盤研究(C)	星 和美	39,000	潜在看護師復職教育プログラムの構築
基盤研究(C)	田中 結華	104,000	クリティカルケア領域における特徴的な皮膚障害の発生要因およびケア内容の検証
基盤研究(C)	田中 結華	91,000	慢性の病における他者への「言いづらさ」と看護のあり方についての研究
基盤研究(C)	細田 泰子	65,000	看護学生のコミュニケーション能力の向上を目指した継続的教育方法の検討
基盤研究(C)	細田 泰子	39,000	潜在看護師復職教育プログラムの構築
基盤研究(C)	山本 裕子	65,000	慢性呼吸器疾患患者への笑いリラクゼーションプログラム評価
基盤研究(C)	石橋 千夏	65,000	慢性呼吸器疾患患者への笑いリラクゼーションプログラム評価
挑戦的萌芽研究	牧野 裕子	130,000	都市プライマリ・ケアにおける高度実践看護師による家庭看護活動モデルの開発
挑戦的萌芽研究	森木 ゆう子	65,000	救急医療の社会的・倫理的問題への対応能力向上に向けた救急看護師教育システムの開発
合計		3,177,200	

第9章 社会貢献と国際交流

1. 地域社会への貢献

1) 公開講座

大阪府立大学羽曳野キャンパス公開講座は、看護学部と総合リハビリテーション学部の合同で開催している。また羽曳野市の事業である「はびきの市民大学」と連携することで、より地域社会に密着したサービスを展開している。平成23年度は看護学部が主担当であり、その概要は資料9-1-1の通りであった。募集人員100名（内50名は「はびきの市民大学」と同時に募集）に対し、申込者47名、受講者39名で、延べ参加者は132名であった。受講者に対するアンケートの結果、受講者の男女比率は5:5、年代は70歳代45.2%、60歳代38.7%でほとんどが60歳以上であった。また「市の広報誌で知った」受講者が一番多く（35.5%）、受講者の61.3%が羽曳野市民であった。全体の印象として74.2%が「とても良かった・良かった」とし、「役立つ知識が得られた」80.6%、「来年もまた参加したい」と80.7%が回答していた。

資料9-1-1 平成23年度 公開講座

テーマ	「快適な人生（QOL）をめざして～災害に備えて～」		
第1日目	10月18日（火）13:00～14:30		
《開講式》	あいさつ	看護学部長	高見沢 恵美子
《題目》	タッチングとリラクゼーション		
○講義		看護学部 准教授	佐保 美奈子
第2日目	10月25日（火）13:00～14:30		
《題目》	集団生活と感染予防		
○講義		看護学部 助教	齋野 貴史
第3日目	11月1日（火）13:00～14:30		
《題目》	災害時の薬の管理と心のケア		
○講義	総合リハビリテーション学部	作業療法学科 教授	西川 隆
第4日目	11月8日（火）13:00～14:30		
《題目》	慢性疾患を持つ方とご家族の災害に向けた備え		
○講義		看護学部 准教授	牧野 裕子
《閉講式》	あいさつ	総合リハビリテーション学部	作業療法学科 教授 谷口 英治

府大講座は府立大学全学部の分担により平成23年度は9月1日から9月29日の日程で開催した。看護学部は9講座のうち9月8日の1講座を担当し、担当講師は垣本和宏教授、講義題名は「世界と日本のエイズ事情、そして私たちの意識」であった。

出前講義は「教員データベース」に出前可能項目を記載することで公表され、地域社会からのニーズに対応している。平成23年度において看護学部からは3教員が対応した。担当教員名、実施日、申込者、講義タイトルは、
・古山美穂助教、平成23年7月16日、開智中学校・高等学校、セクシュアリティと向き合う看護一性のイメージを揺らしてー
・佐保美奈子准教授、平成24年1月12日、大阪商業大学附属高等学校、デートバイオレンスとおしゃれ障害の予防

・長畑多代教授、平成24年1月18日、守口第二地域包括支援センター、認知症高齢者への対応であった。

2) 地域サービス：療養学習支援センター活動

療養学習支援センターは、大学院看護学研究科の附置研究所として位置付けられ、療養学習支援に関する研究・教育、実践、情報提供、学術交流を図ることを目的としている。地域貢献活動として、プロジェクト活動、闘病記文庫、健康フェアの開催を行った。

プロジェクト活動では、電話や来所相談として「手術についてのお悩み相談」を行っている。センターに来所する教室として「脳いきいき教室」「うつ病の家族教室」を開催した。また、当事者や家族の集まりとして「肺がん患者さんのご家族のためのサロン」「ホット&ハートの会」を開催した。1回の参加人数は、プロジェクトにより数名から40名と差がみられるが、年間通じてのべ500名程度の参加があり、地域での活動が定着し、拡大してきている。

健康フェアは、杏樹祭（大学祭）時に、健康に関する身体測定（体組成、骨密度、動脈硬化度など）、体操、健康相談を内容として開催したところ、50名の市民参加があり、地域の健康づくりに貢献することができている。

闘病記文庫は、羽曳野図書館センター内に開架し、年間454冊の貸し出しがなされ、学生や市民に利用されている。新刊図書を購入し、活動の充実に努めている。

療養学習支援センターの活動に関する報告は、年報として刊行し、全国の看護系大学などに配布している。

以上のことから、療養学習支援センターにおける地域への教育サービス活動の成果は上がっている。

3) 高大連携

青少年の学習意欲に応えた教育サービスの提供については、高大連携推進委員会や療養学習支援センターのプロジェクト活動によって実施されている。平成23年度は、高大連携推進委員会を通して、高校生が受講できる科目として看護学部で開講している授業科目「セクシュアリティと看護」（1単位15時間）を提供した。講義日程は以下に示すとおりである（資料9-1-3）。受講者は4名であり、受講終了後に修了証が交付された。

資料9-1-3 「セクシュアリティと看護」の講義日程

1. 開講日時	平成23年11月28日(月)～平成24年1月30日(月) (月曜日 5限目 全8回) 羽曳野キャンパス L棟402号室
2. 対象	高校2年生 (看護学部1年次生、2年次編入生と一緒に講義を受ける)
3. 最小開講人数	看護学部生と一緒に講義を受講するため特になし
4. 講義内容	ヒューマンセクシュアリティについて理解を深め、人間の性、生き方を洞察しながら自己のセクシュアリティ観を育むことを目指しています。 ・ヒューマン・セクシュアリティの概念を学ぶ ・自己のセクシュアリティについて考える ・現代社会におけるセクシュアリティの問題・課題を認識できる

また、療養学習支援センターのプロジェクト活動の一環である「学校などにおける出張セクシュアリティ教育」の中で出張講義を行っている。平成23年度は大阪府立系（府外や市立・私立系も含む）の高等学校において総計2,340名の高校生にデートバイオレンス予防や避妊・性感染症予防、命の大切さ、多様な性などをテーマに出張

講義を行った。

青少年の学習意欲に応えた教育サービスの提供については、高校生と看護学部生が一緒に受講できる科目の開講や高校生を対象とした出張講義を実施しており、適切に行われている。

4) 教員の社会貢献

看護学部所属する教員は、保健、医療、福祉などの分野と関連を保ち、専門看護や専門基盤についての研究・教育に携わりながら、審議会等に積極的な参画が行われている。参画する審議会等の公的団体としては、厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、地方独立行政法人大阪府立病院機構、大阪府または府下市町村、看護協会、各教員が所属する学会等である。社会貢献は「資料 大阪府立大学看護学部教員業績一覧」に示すとおりである。

2. 国際交流

1) マヒドン大学との学術交流

(1) マヒドン大学大学院生の受入れ

平成20年4月に結ばれたタイ王国・マヒドン大学看護学部並びに同大学医学部看護学科との学術交流協定に基づき、大学院生の学生交換プログラムを実施した。マヒドン大学とは大学院生の受入れと派遣を隔年を実施してきており、平成23年は受入れの年となったため10月にマヒドン大学大学院看護学研究科より4名の大学院生を受け入れた。マヒドン大学の大学院生は、本学の教員や大学院生とともに大阪府内の医療施設や保健施設などを見学し、休日には本学の大学院生とともに大阪や京都へ赴き、文化交流を深めた(資料9-2-1-1)。また、マヒドン大学の大学院生はタイの民族衣装を着てキャンパス内でタイ舞踊を披露するなど、看護学の学習のみならず幅の広い交流事業となった。来年度は、本学の看護学研究科大学院生4名をマヒドン大学に派遣する予定となっており、5年間の学術交流協定を更新する計画である。



資料9-2-1 平成23年度マヒドン大学院生 研修概要

平成23年度マヒドン大学院生 研修日程

研修期間：10月16日(日)～10月30日(日)

参加者：①コース Ms. Kannika Wichainate、Ms. Yuwadee Saraboon

②コース Ms. Geeranda Oncharoen、Ms. Jindhra C-Maharsujakuen

日時	コース	内 容	担 当 者
10月16日 (日)	共通	関西国際空港到着	学生ボランティア
		宿泊先への案内、周辺・連絡先に関する説明等	国際交流委員 (垣本、根来)
10月17日 (月)	共通	・大学紹介 (於：B501 会議室) ・オリエンテーション (委員自己紹介、日程確認、インターネット設定等)	国際交流委員 (垣本、中山、池内、山地、山本)
		歓迎会 (於：B501 会議室) (研究科長挨拶、受入領域教員自己紹介、会食)	研究科長、教員、大学院生、国際交流委員
		受け入れ領域ごとの研修オリエンテーション (訪問先、訪問目的、集合時間・場所の確認)	受入領域各教員
		羽曳野キャンパス紹介	国際交流委員 (山本)
10月18日 (火)	共通	羽曳野市保健センター 見学	生活支援看護学 (根来、大学院生) 国際交流委員 (垣本)
10月19日 (水)	①	大阪赤十字病院 見学	療養支援看護学 (田中(京)、簗持)
		呼吸器・アレルギー医療センター 見学	療養支援看護学 (堀井、佐藤)
	②	大阪府立母子保健総合センター 見学	家族支援看護学 (岡崎)
10月20日 (木)	共通	羽曳野市立高鷲北小学校 訪問	国際交流委員 (垣本、中山)
		大学院生との交流	大学院生
10月21日 (金)	①	・福祉施設「ベルタウン」見学 ・介護老人保健施設「悠々亭」見学	生活支援看護学 (長畑)
	②	大阪発達総合療育センター 見学	家族支援看護学 (岡崎)
10月22日 (土)	共通	文化交流 (京都訪問)	学生ボランティア
10月23日 (日)	共通	杏樹祭 (大学祭) 参加	学生ボランティア (国際保健サークルの学生)
10月24日 (月)		休暇	
10月25日 (火)	共通	・大阪府看護協会桃谷研修センター 見学 ・文化交流 (大阪城散策)	人・環境支援看護学 (青山、ボランティアNS)
10月26日 (水)	①	国立病院機構大阪医療センター	療養支援看護学 (田中(登)、佐藤)
		大阪市保健所	療養支援看護学 (堀井、佐藤)
	②	ふなき助産院 見学	家族支援看護学 (町浦)
10月27日 (木)	共通	研究計画、報告会プレゼン準備	
10月28日 (金)	共通	・学生の研究計画・研究内容の発表と質疑 (於：B404 講義室)	大学院生、国際交流委員、教員

		・ 報告会（各コースより発表） ・ 修了式・ 歓送会（於：B501 会議室）	国際交流委員、大学院生
10月29日 (土)	共通	文化交流（大阪散策）	学生ボランティア
10月30日 (日)	共通	関西国際空港出発	国際交流委員（山本、根来）、学生ボランティア

（2）マヒドン大学より教員の招へい

平成23年11月にタイ王国・マヒドン大学ラマティボディ校医学部看護学科よりノッパワン・ピアセウ准教授が看護学研究科に派遣された。本事業は、看護学部国際交流委員会が中心となって看護学研究科として全学の外国人招へい事業の一つに同教員を招へいしたものである。3週間の滞在中、本学の看護学部および大学院看護学研究科の学生に対して、授業や演習の中で英語のみで講義を行い、タイ王国の保健医療事情や研究方法論などについて教鞭を取り、学生にとって貴重な体験となった（資料9-2-1-2）。また、講義や講演のみならず東日本大震災における地域看護の学習や今後の研究交流についても本学教員らと討議した。



資料9-2-1-2 マヒドン大学 教員招へい（ノッパワン・ピアセウ准教授）授業概要等

	科目名等	日時	内 容
看護学研究科の授業	家族看護学	11月10日	講義「文献検索と文献分析法」 実際にパソコンを使用しながら、文献検索方法や検索した文献のまとめ方の講義を行った。（出席学生数：2名）
	臨床遺伝学	11月15日	講義「質的研究と量的研究」 看護研究において基本となる研究方法についての講義を行った。特に質的研究と量的研究の基本的な考え方の相違点や類似点を示した。また、混合研究法についても説明があった。院生が計画している研究を尋ねたり、教員がこれまでに言い論文となった研究を具体的に示して、わかりやすい講義であった。（出席学生数：5名）

	地域看護学	11月26日	講義「タイの公衆衛生と地域保健看護」 地域看護に関する考え方や、タイの公衆衛生状況、さらに国際保健学的な見地から世界の保健課題について、様々な統計を示しながら講義を行った。(出席学生数：10名)
看護学部の授業	人・環境支援論 看護教育	11月14日	講義「タイの看護教育システムと課題」 タイにおける看護教育の歴史と現在のシステムに関する講義であった。育成機関、学校における教育システムのタイと日本との違い、卒後の研修制度について説明した。また、ASEAN（東南アジア諸国連合）統合に向けての課題なども述べられ、学部生からの質疑応答も積極的であった。(出席学生数：106名)
	チーム医療論	11月24日	講義「タイの公衆衛生」 一般的な保健システム全般や保健ケアシステムについての講義があり、その後タイの公衆衛生事情全般について説明された。また、マヒドン大学の看護学生の実習などについても説明があった。写真を多く使い、ゆっくりと話していたため、分かりやすい内容であった。 (出席学生数：120名)
その他	公開講座	11月17日	国際看護セミナー「Domestic Violence in Thailand」 タイにおける女性や子供に対する暴力や虐待問題についてのみならず、自身の研究や、プロジェクトについての紹介もあった。日本においても同様の問題があるため、参加者の多くが興味のある内容となった。
	ディスカッション	11月17日	勉強会「タイにおける保健事情」 国際保健サークルの活動としての勉強会に招いた。講師からも、日本の状況についての質問がなされ、留学経験のある学生や、英語に興味のある学生が多いため、活発な討議となった。(出席学生数：11名)

2) 国際看護セミナー開催

第16回国際看護セミナーを開催した。外国人招へい教員事業にて来日したタイ王国・マヒドン大学ラマティボディ校医学部看護学科ノッパワン・ピアセウ准教授により、研究専門領域であるドメスティック・バイオレンスについての講演会を開催した。

資料9-2-2 平成23年度国際看護セミナー

平成23年度 第16回国際看護セミナー 平成23年11月17日	講演者： ノッパワン・ピアセウ氏（タイ王国・マヒドン大学ラマティボディ校 医学部看護学科准教授） タイのドメスティック・バイオレンスについて現状とタイ政府の取り組みや研究について講演した
---------------------------------------	---

3) 研究者の派遣

延べ20名の研究者が海外に派遣された。

資料9-2-3 平成23年度国際交流研究者の派遣

氏名	旅行日(発)	旅行日(着)	派遣国	用務詳細
佐保美奈子	H23/05/29	H23/06/04	ブルガリア	研修
佐保美奈子	H23/06/29	H23/07/02	大韓民国	施設 視察
中村裕美子	H23/07/09	H23/07/15	アメリカ合衆国	学会出席 (HC I)
簀持知恵子	H23/07/13	H23/07/18	メキシコ	学会出席
細田泰子	H23/07/30	H24/02/02	アメリカ合衆国	在外研究
伊藤良子	H23/08/24	H23/08/28	大韓民国	施設訪問および研究報告
中山美由紀	H23/08/25	H23/08/28	大韓民国	学会出席
垣本和宏	H23/08/26	H23/09/07	大韓民国、カンボジア	学会出席、研究打ち合わせ
田中登美	H23/09/04	H23/09/07	タイ王国	6大学連携オンコロジー FD委員会
徳岡良恵	H23/09/04	H23/09/07	タイ王国	6大学連携オンコロジー FD委員会
中村裕美子	H23/09/09	H23/09/17	ドイツ	学会出席 (KE S2011)
垣本和宏	H23/09/11	H23/09/17	インドネシア	JICA短期専門家
高見沢恵美子	H23/09/18	H23/09/25	アメリカ合衆国	米国看護教育施設 視察
木村洋子	H23/10/04	H23/10/08	オーストラリア	学会出席
田中京子	H23/11/03	H23/11/08	アメリカ合衆国	学会出席 (ONS12th)
田中登美	H23/11/03	H23/11/08	アメリカ合衆国	学会出席 (ONS12th)
林田裕美	H23/11/03	H23/11/08	アメリカ合衆国	学会出席 (ONS12th)
垣本和宏	H23/12/06	H23/12/09	インドネシア	東アジア・ASEAN 経済研究センター会議(経済産業省)
和泉京子	H24/02/21	H24/02/25	シンガポール	学会出席
高見沢恵美子	H24/03/07	H24/03/11	アメリカ合衆国	学会出席
山田加奈子	H24/03/11	H24/03/19	カンボジア	国立母子保健センター視察

4) 学部生のためのスタディーツアー

国際交流担当の教員が中心となり、JICA（独立行政法人国際協力機構）やNGO、旅行会社に協力を依頼し、カンボジアとケニアにおける学部生のためのスタディーツアーを企画した。本学の国際保健サークル「well-being☆」が参加者を募集し、カンボジアでは、JICAの活動見学や、農村部での地域保健活動の見学、プノンペンのスラムの子どもたちへの健康教育活動を行い、ケニアにおいては、JICAプロジェクトのインターン活動、孤児院でのボランティア活動、スラムでの家庭訪問を行った。現地の保健事情や歴史文化については出発前に参加学生らと教員が数日間にわたり事前勉強会を開催し、帰国後には報告会開催や報告書作成、写真展などにより「学び」を公表し、参加できなかった学生とも共有した。発展途上国でのスタディーツアーは国際的な視野を養うだけでなく、学生には日本の保健医療状況を振り返る機会ともなった。



資料 大阪府立大学看護学部教員業績一覧

1) 著書

氏名	出版年月	分担題名	著者名	書名	出版社名	掲載頁
高辻 功一	201203	疼痛の機序とその対処	田中京子, 林田裕美, 田中登美, 徳岡良恵, 高辻功一 他	大阪府立大学におけるがん看護専門看護師の養成、役割と実践	大阪府立大学看護学部内 がんプロ出版部	127-141
楳木野 裕美	201202	障害のある小児と家族、在宅で医療ケアを必要とする小児と家族	著者多数	新体系看護学全書 小児看護学②	メジカルフレンド社	517-525 544-522
上野 昌江	201203	保健師活動に向けた提言	村嶋幸代, 鈴木りり子, 岡本玲子, 上野昌江, 和泉京子 他	大槌町 保健師による全戸家庭訪問と被災地復興 - 東日本大震災後の健康調査から見えてきたこと -	明石書店	159-165
	201203	公衆衛生看護学の概念、公衆衛生看護の歴史、災害看護活動	津村知恵子, 上野昌江, 大川聡子 他	公衆衛生看護学	中央法規出版	2-7, 8-20 276-301
長畑 多代	201106	健康の概念	正木治恵, 真田弘美, 長畑多代 他	老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは	南江堂	104-108
中村 裕美子	201112	看護におけるICTを活用した教育実践に関する研究	中村裕美子, 真嶋由貴恵, 前川泰子	社会との垣根を超える大学の挑戦	エヌ・ティー・エス	49-60
田中 京子	201112	右肺がんの診断と同時に左肺への転移を告げられたKさんの危機、進行性胃がんで化学療法の効果がなく緩和医療を勧められたFさんの危機	著者多数	危機状態にある患者・家族の危機の分析と看護介入（事例集）	全芳堂	45-50 108-113
	201203	がん看護専門看護師教育	田中京子, 林田裕美, 田中登美, 徳岡良恵, 高辻功一 他	大阪府立大学におけるがん看護専門看護師の養成、役割と実践	大阪府立大学看護学部内 がんプロ出版部	1-10
杉本 吉恵	201201	腰痛を起ささないために、適切な移乗介助方法の選択	明石圭司, 上田喜敏, 杉本吉恵, 鈴木和代, 保田淳子, 寺光鉄雄	腰を痛めない介護・看護～質の高いケアのために～	公益財団法人テクノエイド協会	9-12 17-21
和泉 京子	201203	保健師活動に向けた提言	村嶋幸代, 鈴木りり子, 岡本玲子, 上野昌江, 和泉京子 他	大槌町 保健師による全戸家庭訪問と被災地復興 - 東日本大震災後の健康調査から見えてきたこと -	明石書店	159-165
	201203	家庭訪問、感染症保健活動	津村知恵子, 上野昌江, 和泉京子 他	公衆衛生看護学	中央法規出版	221-230, 384-390, 391-404, 444-449
林田 裕美	201203	がん医療におけるチームの活動	田中京子, 林田裕美, 田中登美, 徳岡良恵, 高辻功一 他	大阪府立大学におけるがん看護専門看護師の養成、役割と実践	大阪府立大学看護学部内 がんプロ出版部	87-91
大川 聡子	201203	諸外国の公衆衛生看護活動	津村知恵子, 上野昌江, 大川聡子 他	公衆衛生看護学	中央法規出版	21-29
田中 登美	201203	化学療法看護 化学療法を受ける患者の特徴と有害反応(副作用)に関する看護	田中京子, 林田裕美, 田中登美, 徳岡良恵, 高辻功一 他	大阪府立大学におけるがん看護専門看護師の養成、役割と実践	大阪府立大学看護学部内 がんプロ出版部	179-210
古山 美穂	201108	第5節 主な調査・研究の概要 高等学校における生と性教育プログラムの実践	著者多数	子ども虐待の予防とケアのすべて	第一法規	779(1-11)
徳岡 良恵	201203	がん看護専門看護師の活動と今後の展望	田中京子, 林田裕美, 田中登美, 徳岡良恵, 高辻功一 他	大阪府立大学におけるがん看護専門看護師の養成、役割と実践	大阪府立大学看護学部内 がんプロ出版部	11-17
伊藤 良子	201107	浅賀ふさと医療社会事業	荒木菜穂, 伊藤良子, 織田暁子, 鈴木彩加, 関めぐみ, 豊田真穂, 林葉子	Women Pioneers 一女性先駆者たち	(財)大阪府男女共同参画推進財団	102-112

2) 学会誌・発表論文

氏名	出版年月	著書または発表論文の題名、発表テーマ	著者名	掲載誌名	主催団体名	巻号	掲載頁
垣本 和宏	2011	Willingness to undergo HIV testing among factory workers in Surabaya, Indonesia	Sasaki Y, Arifin A, Ali M, Kakimoto K	AIDS Care	Taylor & Francis	23	10 1305-13
	2011	Social factors affecting ART adherence in rural settings in Zambia	Ikuma Nozaki, Christopher Dube, Kazuhiro Kakimoto, Norio Yamada, James B. Simpungwe	AIDS Care	Taylor & Francis	23	7 831-838
	201201	新型インフルエンザ流行時のインターネット検索頻度から見た情報の推移	梶木綾, 河合夏実, 倉田明奈, 垣本和宏	公衆衛生	医学書院	76	1 79-82
植木野 裕美	201110	支援者のための虐待を未然に防ぐ親支援プログラム	植木野裕美, 加藤曜子, 上野昌江, 鈴木敦子	朝日新聞文化事業団子どもの暴力防止プロジェクト助成	朝日新聞文化事業団		1-58
	201203	病棟看護師が捉える幼児期に小児白血病を発症した子どもの母親が抱く退院後の不安への対応	川勝和子, 植木野裕美	小児保健研究	日本小児保健協会	71	2 235-241
	201203	障害児家族への心理的ケア提供に関する研究	植木野裕美, 岡本伸彦, 市川佳世子, 井上佳成, 後藤真千子, 酒井昌子, 植木野裕美, 藤江のどか	厚生労働科学研究費補助金報告書	厚生労働科研		43-75
	201203	病棟看護師が捉える幼児期に小児白血病を発症した子どもの母親が抱く退院後の不安	川勝和子, 植木野裕美	日本小児看護学会誌	日本小児看護学会	21	1 23-39
町浦 美智子	201111	乳幼児期の軽症アトピー性皮膚炎患者の皮膚バリア機能の改善をもたらす看護支援プログラムの効果	カルデナス暁東, 町浦美智子, 末原紀美代	小児保健研究	日本小児保健協会	70	6 737-743
	201112	在日韓国・朝鮮人学生の性教育受講状況、性知識、伝統的価値観と性行動との関連	椿知恵, 町浦美智子, 佐保美奈子	母性衛生	日本母性衛生学会	52	4 522-528
	2012	妊娠前の看護師のやせの影響や葉酸に関する知識と食習慣の実態 - 妊娠前の一般職との比較 -	美甘祥子, 町浦美智子	第42回(平成23年度)日本看護学会論文集 母性看護	日本看護協会		92-95
	201203	大学生の性行動およびライフスキルの実態	林桐代, 町浦美智子, 佐保美奈子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	18	1 45-55
上野 昌江	201105	乳幼児虐待発生予防は妊娠中からの関わりが重要	上野昌江	日本産婦人科医会報	日本産婦人科医会	63	5 8-9
長畑 多代	201203	生活の場である特別養護老人ホームでの看取りを支える看護実践の内容	長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 江口恭子, 山地佳代	老年看護学	日本老年看護学会	16	2 72-79
中村 裕美子	2011	在宅高齢者のための認知機能低下予防教室「脳いきいき教室」におけるアクティビティの評価	牧野裕子, 中村裕美子, 深山華織	大阪府立大学大学院看護学研究科療養学習支援センター年報	大阪府立大学大学院看護学研究科	8	12-22
高見沢 恵美子	201202	心臓血管外科手術を受ける患者および家族の意思決定上のサポートシステムに関する看護師の認識	福垣美紀, 竹下裕子, 石澤美保子, 高見沢恵美子, 池田敏子, 正井崇史	日本循環器看護学会誌	日本循環器看護学会	7	2 18-25
	201203	冠動脈バイパス術患者のセルフケアに関する測定用具の作成	緒方久美子, 高見沢恵美子, 北村愛子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	18	1 1-9
	201203	冠動脈バイパス術を受けた患者のセルフケアモデルとその関連要因	緒方久美子, 高見沢恵美子, 北村愛子	聖隷看護学会誌	聖隷クリストファー大学	2	2 1-7
田中 京子	201203	一般市民のがん医療と看護に対する認知およびがん医療従事者への期待	田中登美, 梶村郁子, 林田裕美, 田中京子, 高辻功一	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	18	1 85-96
	201203	医療職者のがん看護専門看護師に対する認知と期待	林田裕美, 田中登美, 竹下裕子, 田中京子, 高辻功一	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	18	1 107-112
旗持 知恵子	201109	糖尿病患者の食事療法への看護支援をどのように行っていますか?	工藤沙織, 旗持知恵子	主任 & 中堅 + ところサポート	日総研出版		120-125
	201112	外来通院中のCOPD患者における情報ニーズの実態とQOLの関連	毛利豊子, 光木幸子, 旗持知恵子, 他	京都府立医科大学看護学会紀要	京都府立医科大学	21	69-75
青山 ヒフミ	201106	一般病院に勤務する看護師の職務満足度を構成する概念の明確化	撫養真紀子, 勝山貴美子, 尾崎フサ子, 青山ヒフミ	日本看護管理学会誌	日本看護管理学会	15	1 57-65
杉本 吉恵	201203	変形性膝関節症患者に対して温療法と音楽聴取を組み合わせた疼痛緩和ケアの効果。脳波指標と心理的指標を用いた研究	福満舞子, 杉本吉恵, 田中結華, 高辻功一	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	18	1 23-31
星 和美	201203	看護系大学に所属する若手教員の学習ニーズとその関連要因	土肥美子, 細田泰子, 星和美	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	18	1 33-44
	201203	病院看護部における潜在看護師の復職研修と受け入れに関する全国調査	神戸美輪子, 細田泰子, 星和美	畿央大学紀要	畿央大学	9	1 1-12
佐保 美奈子	201201	在日韓国・朝鮮人学生の性教育受講状況、性知識、伝統的価値観と性行動との関連	椿知恵, 町浦美智子, 佐保美奈子	母性衛生	日本母性衛生学会	52	4 522-528
	201201	在日韓国・朝鮮人学生の性教育受講状況、性知識、伝統的価値観と性行動との関連	椿知恵, 町浦美智子, 佐保美奈子	母性衛生	日本母性衛生学会	52	4 522-528
	201203	エイズ看護及び教育に対する看護管理者のニーズ	古山美穂, 佐保美奈子, 豊田百合子, 畑井由美子, 泉柚枝, 飯沼恵子, 澤口智登里, 熊谷祐子, 下司有加	第42回日本看護学会論文集 成人看護 II	日本看護協会		268-275
	201203	大学生の性行動およびライフスキルの実態	林桐代, 町浦美智子, 佐保美奈子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	18	1 45-55
	201203	高校生への性教育授業の充実に向けたアウトリーチ活動の現状と課題	古山美穂, 佐保美奈子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	18	1 113-118
和泉 京子	201108	身体・心理・社会状況からみた向老期世代の老いの認識および老いへの備えをふまえた介護予防のあり方	和泉京子, 阿曾洋子	財団看護研究収録	木村看護教育振興会	18	1-10
	201201	「軽度要介護認定」高齢者の5年後の要介護度の推移の状況とその要因	和泉京子, 阿曾洋子, 山本美輪	老年社会科学	ワールドプランニング	33	4 538-554
松田 千登勢	201203	生活の場である特別養護老人ホームでの看取りを支える看護実践の内容	長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 江口恭子, 山地佳代	老年看護学	日本老年看護学会	16	2 72-79
石田 宣子	201203	救命救急センターの新人看護師に対して先輩看護師が行う家族援助指導	津川真弓, 貞永千佳生, 石田宣子	日本看護学会論文集(看護管理)	日本看護学会	42	1 22-25
佐藤 淑子	201203	学術集会展望-感染看護における教育の継続性	佐藤淑子, 菊一好子, 名渡山智子, 河瀬貞子, 田中郁子, 中島真寿美	日本感染看護学会誌	日本感染看護学会	8	1 50-57
林田 裕美	201203	一般市民のがん医療と看護に対する認知およびがん医療従事者への期待	田中登美, 梶村郁子, 林田裕美, 田中京子, 高辻功一	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	18	1 85-96
	201203	医療職者のがん看護専門看護師に対する認知と期待	林田裕美, 田中登美, 竹下裕子, 田中京子, 高辻功一	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	18	1 107-112
田中 結華	201106	ストーマ周囲、腸腰周囲皮膚に腺癌皮膚転移を認めた2症例	松田常美, 曾我智美, 田中結華, 永原史, 野田英児, 井上透, 前田清	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	27	2 39-43
	201106	慢性の病いにおける他者への「言いづらさ」-ライフストーリーインタビューは何を描き出すか	曾我智美, 黒江ゆり子, 市橋恵子, 中岡亜希子, 森谷利香, 古城門靖子, 田中結華	看護研究	医学書院		293-315
	2012	慢性特発性偽性腸閉塞でストーマ造設した一症例のケア	曾我智美, 松田常美, 林純代, 田中結華, 井上透, 前田清	STOMA	関西STOMA研究会	19	1 37-40
細田 泰子	201203	看護系大学に所属する若手教員の学習ニーズとその関連要因	土肥美子, 細田泰子, 星和美	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	18	1 33-44
	201203	病院看護部における潜在看護師の復職研修と受け入れに関する全国調査	神戸美輪子, 細田泰子, 星和美	畿央大学紀要	畿央大学	9	1 1-12
羽畑 正孝	201104	溺水による低酸素性脳症児の母親の心理的プロセス	羽畑正孝, 鈴木ひとみ, 畑下博也	日本看護研究学会雑誌	日本看護研究学会	34	1 107-115

氏名	出版年月	著書または発表論文の題名、発表テーマ	著者名	掲載誌名	主催団体名	巻号	掲載頁
古山 美穂	201203	エイズ看護及び教育に対する看護管理者のニーズ	古山美穂, 佐保美奈子, 豊田百合子, 畑井由美子, 泉柚岐, 飯沼恵子, 薄口智登里, 熊谷祐子, 下司有加	第42回日本看護学会論文集成人看護Ⅱ	日本看護協会		268-275
	201203	高校生への性教育授業の充実に向けたアウトリーチ活動の現状と課題	古山美穂, 佐保美奈子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	18	1113-118
椿 知恵	201201	在日韓国・朝鮮人学生の性教育受講状況、性知識、伝統的価値観と性行動との関連	椿知恵, 町浦美智子, 佐保美奈子	母性衛生	日本母性衛生学会	52	4522-528
山田 加奈子	2012	褥瘡不安心理の初産婦と経産婦の比較検討—褥瘡2週間目と褥瘡1カ月目の差異—	山田加奈子, 鈴木江三子	日本母性衛生学会誌	日本母性衛生学会	57	4593-600
江口 恭子	201203	生活の場である特別養護老人ホームでの看取りを支える看護実践の内容	長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 江口恭子, 山地佳代	老年看護学	日本老年看護学会	16	272-79
	201203	身体合併症で入院した認知症高齢者への一般病院におけるケアのプロセス	江口恭子, 前田裕子, 久保田正和, 木下彩栄	京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要	京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻	7	23-28
根来 佐由美	2011	自治体福祉NPO団体が活動する地域住民の特徴	根来佐由美, 大川聡子, 和泉京子, 上野昌江, 杉本華澄, 村山久美子	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	17	193-102
	201112	水中運動指導者の皮膚状態	田名部佳子, 辻本朋美, 根来佐由美, 井上智子	厚生労働省	厚生労働統計協会	58	1513-18
山内 加絵	201203	生活の場である特別養護老人ホームでの看取りを支える看護実践の内容	長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 江口恭子, 山地佳代	老年看護学	日本老年看護学会	16	272-79
山地 佳代	201203	生活の場である特別養護老人ホームでの看取りを支える看護実践の内容	長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 江口恭子, 山地佳代	老年看護学	日本老年看護学会	16	272-79
石橋 千夏	201111	看護課程がよくわかるカンタン看護診断	山本裕子, 石橋千夏	ブチナース	照林社		
	201203	クローン病患者の病勢の察知と対処	石橋千夏	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	18	169-74
齋野 貴史	201203	足浴、指圧の生理的効果—皮膚表面温度と心拍変動解析による評価—	齋野貴史	大阪府立大学看護学部紀要	大阪府立大学看護学部	18	175-83
松本 智晴	201107	DPCを用いた入院期間に及ぼす影響要因と看護ケア量との関係性に関する分析	松本智晴, 信太圭一, 宇都由美子, 熊本一郎	第12回日本医療情報学会看護学術大会論文集	有限責任中間法人日本医療情報学会		22-25
	201111	高齢化の進展に対応した安全で確実な医用画像検査の確立に向けて	佐々木雅史, 宇都由美子, 信太圭一, 松本智晴, 池田睦, 熊本一郎	第31回医療情報学連合大会論文集	有限責任中間法人日本医療情報学会		332-335
	201111	急性期医療における看護量の可視化とDPCを用いた看護ケアの均てん化に関する研究	松本智晴, 山本むつみ, 信太圭一, 宇都由美子, 熊本一郎	第31回医療情報学連合大会論文集	有限責任中間法人日本医療情報学会		489-494
	201111	同一DPCにおける医療資源の投入量に影響を及ぼす疾患を有する患者のコスト分析に関する研究	信太圭一, 山本むつみ, 松本智晴, 佐々木雅史, 宇都由美子, 熊本一郎	第31回医療情報学連合大会論文集	有限責任中間法人日本医療情報学会		451-452
撫養 真紀子	201109	一般病院に勤務する看護師の職務満足を構成する概念	撫養真紀子, 勝山貴美子, 尾崎フサ子, 青山ヒツミ	日本看護管理学会誌	日本看護管理学会	15	157-65
森木 ゆう子	201109	救急患者の家族に対する看護師の援助の意味	森木ゆう子, 明石恵子	日本救急看護学会誌	日本救急看護学会	13	2

3) 学術講演・学会発表

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
垣本 和宏	201108	長期定点観察による妊婦のHTLV-1抗体陽性率の推移について	第63回日本産科婦人科学会学術講演会	安藤良弥, 中野司朗, 斎藤謙介, 垣本和宏, 江國豊, 河元洋, 當山雄紀
	201108	Scaling up of the National Programme for the Prevention of Mother-to-Child Transmission (PMTCT) of HIV in Cambodia	10th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific	Vong Sathiarany, Koum Kanal, Naomi Nakaie, Kazuhiro Kakimoto
	201111	Adherence to Antiretroviral Therapy in the Early Months of the Treatment in Rural Zambia	第26回日本国際保健医療学会学術集会	佐々木由理, 垣本和宏, Sikazwe Izukanji, Watala Janet, Moyo Crispin I., Kayama Nangana, Christopher Dub, 駒田謙一, 宮野真輔, 石川尚子, 北澤, 甲斐一
	201111	カンボジアHIV 母子感染予防(PMTCT)プログラムの10年間の指標の変化と課題	第26回日本国際保健医療学会学術集会	中家奈緒美, Vong Sathiarany, 山口文月, 野崎威功真, 佐々木由理, Koum Kanal, 垣本和宏
	201111	カンボジア人口保健調査(DHS)を用いた、女性の避妊行動の要因	第26回日本国際保健医療学会学術集会	山口文月, 野崎威功真, 中家奈緒美, 佐々木由理, Vong Sathiarany, Koum Kanal, 小山田浩子, 垣本和宏
	201111	Web 調査法による日本人のHIV 検査受診動向調査	第26回日本国際保健医療学会学術集会	野崎威功真, 蜂矢正彦, 垣本和宏
	201111	HIVと妊婦を取り巻く状況-カンボジア母子感染予防プログラムなどから-	第26回日本国際保健医療学会学術集会	垣本和宏, 佐々木由理
高辻 功一	201110	変形性膝関節症に伴う疼痛がある患者に対する温電法および音楽聴取を用いた看護介入の効果	日本看護技術学会	福満舞子, 杉本吉恵, 田中結華, 高辻功一
中山 美由紀	201106	臨床における家族事例検討会の実際	日本家族看護学会第18回学術集会	井上敦子, 藤野崇, 中山美由紀, 岡本双美子
	201106	The involvement of fathers with childcare and housework according to gender role attitudes	10th International Family nursing conference	Nakavama M, Koizumi T, Fukuyama Y, Muto T
	201106	The coordination of family roles for adjusting to home care after discharge from NICU : a focus on mothers with children who require medical care	10th International Family nursing conference	Inoue A, Nakavama M, Okamoto F, Fujino Y
	201106	Nurses' perception regarding the difficulty of intervening in families with infants hospitalized inNICUs	10th International Family nursing conference	Nakavama M, Fujino Y, Inoue A
	201106	Nursing practice and the characteristics of children with a lifestyle-related disease and their families: an analysis of interviews with 18 Japanese nurses	10th International Family nursing conference	Iwami K, Arakawa T, Ueda C, Eguchi N, Nakavama M
	201108	Relationships among the educational experiences about reproductive health and QOL of the infertile mongorian woman	The 21st World Congress on Psychosomatic Medicine	Nakavama M, Kamisawa E
	201109	リプロダクティブヘルスを目指した専門看護領域とのコラボレーション 家族看護の立場から	第9回日本生殖看護学会学術集会	中山美由紀
	201109	生活習慣病の子どもと家族に行った看護実践と必要なシステム	第58回日本小児保健学会	石見和世, 荒川つし, 上田智加子, 江口奈美, 中山美由紀
	201203	子どもの誕生と家族の発達 第6報一妊娠中から生後5歳までの親としてのイメージの変化と心理的健康との関係一	日本発達心理学会第23回大会	中山美由紀, 福丸由佳, 小泉智恵, 無藤隆
植木野 裕美	201107	プレパレーションってなに？	第21回日本小児看護学会	蝦名美智子, 植木野裕美, 小野智美, 井伊久美子, 岡崎裕子, 長谷川由香, 栗林祐季
	201107	病棟看護師が捉える幼児期に小児白血病を発症した子どもの母親が抱く退院後の不安	第21回日本小児看護学会	川勝和子, 植木野裕美
	201107	点滴・採血を受ける幼児のプレパレーション課程における親と医療者との協働に関する看護師の認識	第21回日本小児看護学会	岡崎裕子, 植木野裕美, 鈴木敦子, 高橋清子
	201109	子ども虐待予防に向けた家族支援のために看護職が行うアセスメントに関する研究(2)-虐待がおこるかもしれない看護職が感じた看護職の言動	第58回日本小児保健学会	鎌田佳奈美, 石原あや, 植木野裕美, 鈴木敦子
	201109	体外受精後の母親の育児ネットワーク	第52回日本母性衛生学会	宮田久枝, 植木野裕美, 八木佳奈子, 奥島美香, 奥井静香
	201111	病棟看護師が認識する幼児期に小児白血病を発症した子どもの母親が抱く退院後の不安への対応	第9回小児がん看護学会	川勝和子, 植木野裕美
	201112	子ども虐待予防に向けた家族支援のために看護職が行うアセスメント2-病棟によるアセスメントの傾向	第31回日本科学学会学術集会	鎌田佳奈美, 石原あや, 植木野裕美, 鈴木敦子
	町浦 美智子	201106	妊娠前の20~30歳代就労女性のやせと葉酸に関する知識、価値観と食習慣との関連	第13回日本母性看護学会学術集会
201106		妊婦のシートベルト着用推進をめざした教材に対する妊婦の評価	第13回日本母性看護学会学術集会	中嶋有加里, 町浦美智子, 山田加奈子
201106		A qualitative study about the ability for health assessment of the menopausal women	The 10th International Family Nursing Conference	Nobuko Nakanishi, Michiko Machiura
201106		Preparedness for parenthood among adolescent males and females- Continuous learning experience of caring for infants and the evaluation of its effects with the scale of readiness for parenthood	29th International Confederation of Midwives	Ayako Sasaki, Hirota Kosaka, Kimiyo Suehara, Michiko Machiura, Norihiro Sadato, Hidehiko Okazawa
201106		The role of the grandmother: Child-rearing assistance from grandmothers that supports the process of becoming a mother	29th International Confederation of Midwives	Sumi Misawa, Kazumi Nakayama, Michiko Machiura
201108		妊娠前の看護師のやせの影響と葉酸に関する知識、価値観と食習慣との関連	第42回日本看護学会、母性看護分科会	美甘祥子, 町浦美智子

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
上野 昌江	201107	Menternal and Child Health Acthivities in Japan:Working Together with Health and Welfare Agency	The 2nd Japan-Korea Joint Conference on Community Health Nursing	Masae Ueno
	201109	保育所を利用している親野ワーク・ファミリー・コンフリクトと家事育児行動との関連	第58回日本小児保健学会	伊勢新吾, 上野昌江, 和泉京子
	201112	地域で生活する女性高齢者の住宅環境の転倒リスクと予防のための支援	第31回日本看護科学学会学術集会	土井有羽子, 上野昌江, 和泉京子
	201110	成年女性の乳がん検診と自己触診に関する知識と意識の実態と啓発普及活動による変化	第70回日本公衆衛生学会総会	岡本亜紀乃, 和泉京子, 上野昌江, 東口三谷子
	201110	子育てサロンに來所した母親の乳房自己検診(BSE)の知識等と実施との関連	第70回日本公衆衛生学会総会	上村智子, 上野昌江, 和泉京子
	201110	4か月健診の間診票における養育支援が必要な親子の検討(第1報)	第70回日本公衆衛生学会総会	永本智子, 堀田邦子, 岡本かおり, 上野昌江, 和泉京子
	201110	4か月健診の間診票における養育支援が必要な親子の検討(第2報)	第70回日本公衆衛生学会総会	下園好, 堀田邦子, 岡本かおり, 上野昌江, 和泉京子
	201110	4か月健診の間診票における養育支援が必要な親子の検討(第3報)	第70回日本公衆衛生学会総会	川西清美, 堀田邦子, 岡本かおり, 上野昌江, 和泉京子
	201110	通所介護を利用する後期高齢者のソーシャルサポート授受とQOLとの関連	第70回日本公衆衛生学会総会	平尾頌子, 上野昌江, 和泉京子
	201110	地域で生活する女性高齢者の自宅内再転倒の実態	第70回日本公衆衛生学会総会	土井有羽子, 上野昌江, 和泉京子
	201110	軽度要介護認定高齢者の介護サービス未利用の背景-介護サービス利用・未利用の比較-	第70回日本公衆衛生学会総会	海原律子, 上野昌江, 和泉京子
長畑 多代	201106	生活の場である特別養護老人ホームでの看取りを支える看護実践リストの検討	日本老年看護学会第16回学術集会	長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 江口恭子
	201106	介護保険施設における看護・介護職のシーティングへの取り組み(第1報)-シーティングの取り組みの経緯と看護・介護職の役割-	日本老年看護学会第16回学術集会	佐々木八千代, 白井みどり, 山内加絵, 北村有香, 長畑多代, 杉本吉恵, 廣瀬秀行
	201106	介護保険施設における看護・介護職のシーティングへの取り組み(第2報)-看護・介護職によるシーティングの判断と実践-	日本老年看護学会第16回学術集会	白井みどり, 佐々木八千代, 北村有香, 山内加絵, 杉本吉恵, 長畑多代, 廣瀬秀行
	201107	奇立ち・暴言のある認知症高齢者をケアする認知症対応型通所介護の職員の感情	日本ヒューマン・ケア心理学学会学術集会第13回大会	江口恭子, 長畑多代
中村 裕美子	201107	Evaluation of Continuous Traial by Mobile Learning in Nursing Practical Training	HCI1 2011	Yukie Majima, Yumiko Nakamura, Yasuko Maekawa
	201110	認知機能低下予防教室参加者の日常活動における予防行動	第70回日本公衆衛生学会総会	牧野裕子, 中村裕美子, 今川志津子, 深山華織, 太田暁子
	201112	日中独居で過ごす要介護高齢者の抱えている不安とその対処	第31回日本看護科学学会学術集会	深山華織, 中村裕美子, 牧野裕子
高見沢 恵美子	201108	意識障害により緊急入院した患者に対する緊急開頭術の代理意思決定を行う家族のニーズ	第37回一般社団法人日本看護研究学会学術集会	森田幸子, 高見沢恵美子, 石澤美保子
	201108	熱傷患者の創傷処置の疼痛コントロールの実際と影響要因に関する看護師の認識	第37回一般社団法人日本看護研究学会学術集会	亀井有子, 高見沢恵美子, 石澤美保子
	201108	認定看護師が行う集中治療室入室患者に対する外傷後ストレス障害のアセスメントと予防的介入	第37回一般社団法人日本看護研究学会学術集会	岡崎理絵, 高見沢恵美子, 石澤美保子
	201112	心臓血管外科手術を受ける患者の手術意思決定に影響する要因	第31回日本看護科学学会学術集会	稲垣美紀, 藤原尚子, 竹下裕子, 石澤美保子, 高見沢恵美子
田中 京子	201112	終末期がん患者の家族の希望	第31回日本看護科学学会学術集会	中尾江里, 林田裕美, 田中京子
	201202	終末期がん患者の家族の希望の促進、阻害要因	第26回日本がん看護学会学術集会	中尾江里, 林田裕美, 田中京子
	201202	「悪い知らせ」を伝える前のがん患者に対してがん看護専門看護師が提供している看護援助	第26回日本がん看護学会学術集会	高田智恵子, 林田裕美, 田中京子
	201202	術前の化学放射線療法を受けている食道がん患者の困難	第26回日本がん看護学会学術集会	長尾充子, 林田裕美, 田中京子
旗持 知恵子	201106	2型糖尿病に罹患した女性就労者の食事自己管理行動とその影響要因の関連	第5回日本慢性看護学会学術集会	桑木由美子, 旗持知恵子
	201106	外来通院中のCOPD患者における情報ニーズの実際	第5回日本慢性看護学会学術集会	毛利貴子, 旗持知恵子
	201106	閉塞性肺疾患患者の動作別満足度の特徴	第5回日本慢性看護学会学術集会	石田美香, 竹川幸恵, 池田由紀, 旗持知恵子
	201106	社会参加を果たしている失語症者に対する家族の関わり	第5回日本慢性看護学会学術集会	有井千恵, 旗持知恵子
	201107	Relationship Between Frequency of Self-Motitoring and Phisical Condition of Patients with Ishcemic Heart Disease	2nd International Nursing Research Conference	Chieko Hatamochi, Michiko Nakamura
	201108	再入院に至ったクローン病患者の病勢の変化への対処	第16回日本難病看護学会	石橋千夏, 数下八重, 旗持知恵子
	201108	インターフェロン療法を提案されたC型慢性肝炎患者の意思決定とその関連要因	第37回日本看護研究学会	片山泰祐, 旗持知恵子
	201110	虚血性心疾患患者のセルフモニタリングの頻度と栄養摂取状態の関連	第33回日本臨床栄養学会総会	旗持知恵子, 中村美知子
	201112	在宅酸素療法中の慢性閉塞性肺疾患患者の屋外歩行満足度、歩行障害の程度及びQOLの関連	第31回日本看護科学学会学術集会	石田美香, 池田由紀, 旗持知恵子
堀井 理司	201108	ワークショップ「看護実践者と教育研究者の連携の促進」	第11回日本感染看護学会学術集会	堀井理司, 鈴木恵子, 高坂久美子, 大野典子, 島内知恵子, 白井文恵, 森下幸子, 杉本君代
	201108	介護老人保健施設におけるノロウイルス感染対策としての行動規制により引き起こされる入所者の反応とそれに対する看護援助-看護師への面接を通して	第11回日本感染看護学会学術集会	金崎美奈子, 佐藤淑子, 堀井理司
青山 ヒフミ	201108	急性期病院における先輩看護師が認識する一人前看護師の臨床能力とその発達プロセス	第15回日本看護管理学会	亀井葉子, 勝山貴美子, 青山ヒフミ
	201109	一般病院に勤務する看護師の職務満足度を構成する概念	第15回日本看護管理学会	撫養真紀子, 勝山貴美子, 青山ヒフミ

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
杉本 吉恵	201106	介護保険施設における看護・介護職のシーティングへの取り組み(第1報)-シーティングの取り組みの経緯と看護・介護職の役割-	日本老年看護学会第16回学術集会	佐々木八千代, 白井みどり, 山内加絵, 北村有香, 長畑多代, 杉本吉恵, 廣瀬秀行
	201106	介護保険施設における看護・介護職のシーティングへの取り組み(第2報)-看護・介護職によるシーティングの判断と実践-	日本老年看護学会第16回学術集会	白井みどり, 佐々木八千代, 北村有香, 山内加絵, 杉本吉恵, 長畑多代, 廣瀬秀行
	201110	変形性膝関節症に伴う疼痛がある患者に対する温電法および音楽聴取を用いた看護介入の効果	第10回日本看護技術学会学術集会	福満舞子, 杉本吉恵, 田中結華, 高辻功一
	201110	ナノミストサウナが及ぼす身体への影響-皮膚の状態と四肢皮膚温の変化-	第10回日本看護技術学会学術集会	隅田千絵, 福満舞子, 伊藤良子, 杉本吉恵, 田中結華, 高辻功一, 森木ゆう子, 中山由美, 前川泰子, 山居輝美
星 和美	201105	eラーニングによる未就労看護師のための再就職支援研修システムの開発と評価	教育システム情報学会2011年度第1回研究会	中村裕美子, 真嶋由貴恵, 前川泰子, 牧野裕子, 中嶋有加里, 平松瑞穂, 星和美, 細田泰子
	201108	フロー理論に基づく新人看護師の心理的発達の様相	第37回日本看護研究学会学術集会	井上奈々, 細田泰子, 星和美
	201108	看護系大学生の臨床実習におけるレジリエンスの構成要素	第37回日本看護研究学会学術集会	隅田千絵, 細田泰子, 星和美
	201108	看護系大学に所属する若手教員の学習ニーズとその関連要因	第37回日本看護研究学会学術集会	土肥美子, 細田泰子, 星和美
	201108	看護師の潜在期間別に見た看護技術自己評価の特徴	第37回日本看護研究学会学術集会	井上奈々, 細田泰子, 星和美
岡本 双美子	201106	Grief Care : A Case Study of a Family of a End-of-Life Cancer Patient at Home	10th International Family Nursing Conference	Okamoto E
	201106	The coordination of family roles for adjusting to home care after discharge from NICU : a focus on mothers with children who require medical care	10th International Family nursing conference	Inoue A, Nakayama M, Okamoto E, Fujino Y
鎌田 佳奈美	201111	子ども虐待予防に向けた家族支援のために看護職が行うアセスメントII	第31回日本看護科学学会学術集会	鎌田佳奈美, 石原あや
	201111	虐待が起こるかも知れないと看護職が感じた子どもの言動	日本小児保健学会学術集会	石原あや, 鎌田佳奈美
	201111	虐待が起こるかも知れないと看護職が感じた親の言動	日本小児保健学会学術集会	鎌田佳奈美, 石原あや, 榎木裕美, 鈴木敦子
	201112	子ども虐待予防に向けた家族支援のために看護職が行うアセスメントI	第31回日本看護科学学会学術集会	鎌田佳奈美, 石原あや
佐保 美奈子	201107	セクシュアリティ相談での母子への関わり	第20回日本小児泌尿器科学会	佐保美奈子
	201109	エイズ看護及び教育に対する看護管理者のニーズ	日本看護学会 成人看護I・II	古山美穂, 佐保美奈子, 豊田百合子, 畑井由美子, 泉柚岐, 飯沼恵子, 澤口智登里, 熊谷祐子, 下司有加
	201110	エイズ看護及び教育に対する看護職者のニーズ	日本看護学会 成人看護I・II	古山美穂, 佐保美奈子, 豊田百合子, 畑井由美子, 泉柚岐, 飯沼恵子, 澤口智登里, 熊谷祐子, 下司有加
	201111	女子大学生におけるブルガリア産ローズ入りブレンドオイルを使用したハンドトリートメントによるストレス緩和効果	第14回日本アロマセラピー学会	佐保美奈子
	201111	アクティビティを取り入れたHIV研修プログラムの検討	第25回日本エイズ学会	熊谷祐子, 佐保美奈子
	201111	大学生のコンドーム使用の実態	第25回日本エイズ学会	佐保美奈子
	201112	思春期・青年期患者へのセクシュアリティ支援	第1回大阪府立母子保健総合医療センター・東京都立小児総合医療センター 合同性分化研究会	佐保美奈子
	201112	男子へのセクシュアリティ教育	平成23年度性と健康を考える女性専門家の会近畿支部講演会	佐保美奈子
中嶋 有加里	201105	eラーニングによる未就労看護師のための再就職支援研修システムの開発と評価	教育システム情報学会 2011年度第1回研究会	中村裕美子, 真嶋由貴恵, 前川泰子, 牧野裕子, 中嶋有加里, 平松瑞穂, 星和美, 細田泰子
	201106	妊婦の全席シートベルト着用推進をめざした教材に対する妊婦の評価	第13回日本母性看護学会学術集会	中嶋有加里, 町浦美智子, 山田加奈子
	201109	携帯電話の電磁波による健康リスクと看護学生の認知-妊婦とのリスクコミュニケーションに向けての検討-	第52回日本母性衛生学会学術集会	山田加奈子, 中嶋有加里, 上田晃子, 北林美紗子, 高英実
	201109	女子大生の不定愁訴と睡眠障害の関連性	第52回日本母性衛生学会学術集会	毛受矩子, 佐藤拓代, 中嶋有加里, 林田嘉朗

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
和泉 京子	201112	社会経済格差をふまえた国保加入者の特定健診未受診に関連する要因	第31回日本看護科学学会学術集会	和泉京子, 阿曾洋子
	201112	地域で生活する女性高齢者の住宅環境の転倒リスクと予防のための支援	第31回日本看護科学学会学術集会	土井有羽子, 上野昌江, 和泉京子
	201110	経済的背景をふまえた国保の特定健診受診に関する研究(第1報)未受診者の受療行動	第70回日本公衆衛生学会総会	舟本美果, 渡辺浩一, 矢熊恵美子, 和泉京子, 阿曾洋子
	201110	経済的背景をふまえた国保の特定健診受診に関する研究(第2報)未受診者の生活習慣	第70回日本公衆衛生学会総会	和泉京子, 舟本美果, 渡辺浩一, 矢熊恵美子, 阿曾洋子
	201110	成年女性の乳がん検診と自己触診に関する知識と意識の実態と啓発普及活動による変化	第70回日本公衆衛生学会総会	岡本亜紀乃, 和泉京子, 上野昌江, 東口三谷子
	201110	子育てサロンに来所した母親の乳房自己検診(BSE)の知識等と実施との関連	第70回日本公衆衛生学会総会	上村智子, 上野昌江, 和泉京子
	201110	4か月健診の間診票における養育支援が必要な親子の検討(第1報)	第70回日本公衆衛生学会総会	永本智子, 堀田邦子, 岡本かおり, 上野昌江, 和泉京子
	201110	4か月健診の間診票における養育支援が必要な親子の検討(第2報)	第70回日本公衆衛生学会総会	下園好, 堀田邦子, 岡本かおり, 上野昌江, 和泉京子
	201110	4か月健診の間診票における養育支援が必要な親子の検討(第3報)	第70回日本公衆衛生学会総会	川西清美, 堀田邦子, 岡本かおり, 上野昌江, 和泉京子
	201110	通所介護を利用する後期高齢者のソーシャルサポート授受とQOLとの関連	第70回日本公衆衛生学会総会	平尾頌子, 上野昌江, 和泉京子
	201110	地域で生活する女性高齢者の自宅内再転倒の実態	第70回日本公衆衛生学会総会	土井有羽子, 上野昌江, 和泉京子
	201110	軽度要介護認定高齢者の介護サービス未利用の背景-介護サービス利用・未利用の比較-	第70回日本公衆衛生学会総会	海原律子, 上野昌江, 和泉京子
	201106	「軽度要介護認定」高齢者の5年後の要介護度の推移の状況とその要因	日本老年社会科学会第53回大会	和泉京子, 阿曾洋子, 山本美輪
	201107	Factors related to care levels after 5 years by age (under/over 75 years old)in elderly people with lower care levels in Japan	The 2nd Japan-Korea Joint Conference on Community Health Nursing Japan	Kyoko Izumi, Yoko Aso
	201202	Factors related to care levels after 5 years in elderly people with lower care levels in Japan	15th East Asian Forum for Nursing Scholars	Kyoko Izumi, Yoko Aso
	201202	State of health and health behavior of Japanese national health insurance policyholders on an economic circumstances basis	the Asia Pacific Research Symposium	Kyoko Izumi, Yoko Aso
	201107	学校事故に遭った児童生徒に対する養護教諭の救急搬送時のケア	第58回近畿学校保健学会	森川英子, 和泉京子, 上野昌江
201105	falling regarding women elderly people with diabetes,	ICN conference and CNR,	Miwa YAMAMOTO, Kyoko IZUMI, Yoko ASO	
木村 洋子	201107	うつ病者家族と統合失調症者家族が経験する困難な出来事の種類と相違	日本うつ病学会	木村洋子
	201110	Evaluation of psy-choeducation program to family of person diagnosed as depression	ACMHN 37th international conference	Yoko Kimura, Masami Hasegawa, Yukio Kuwana
松田 千登勢	201106	生活の場である特養での看取りを実現するために行っている看護職の支援内容	日本老年看護学学会 第16回学術集会	長畑多代, 山内加絵, 松田千登勢, 江口恭子
石田 宣子	201109	術前オリエンテーションに対する患者の受け止めと関係する因子の検討	日本看護学会	石田宣子
	201110	救命救急センターの新人看護師に対して先輩看護師が行う家族援助指導	日本看護学会	津川真弓, 石田宣子
佐藤 淑子	201108	介護老人保健施設におけるノロウイルス感染対策としての行動規制により引き起こされる入所者の反応とそれに対する看護援助-看護師への面接を通して	第11回日本感染看護学会学術集会	金崎美奈子, 佐藤淑子, 堀井理司
林田 裕美	201112	終末期がん患者の家族の希望	第31回日本看護科学学会学術集会	中尾江里, 林田裕美, 田中京子
	201202	終末期がん患者の家族の希望の促進、阻害要因	第26回日本がん看護学会学術集会	中尾江里, 林田裕美, 田中京子
	201202	「悪い知らせ」を伝える前のがん患者に対してがん看護専門看護師が提供している看護援助	第26回日本がん看護学会学術集会	高田智恵子, 林田裕美, 田中京子
	201202	術前の化学放射線療法を受けている食道がん患者の困難	第26回日本がん看護学会学術集会	長尾充子, 林田裕美, 田中京子
藪下 八重	201106	「患者から療養法を学ぶ」体験学習の試み-クローン病患者の体験を看護教育に生かす-	第5回日本慢性看護学会学術集会	藪下八重
	201108	再入院に至ったクローン病患者の病勢の変化への対処	第16回日本難病看護学会学術集会	石橋千夏, 藪下八重, 旗持知恵子
田中 結華	201106	慢性の病いにおける他者への「言いづらさ」-看護職者のストーリーから-	第5回日本慢性看護学会学術集会	黒江ゆり子, 市橋恵子, 寶田穂, 藤澤まこと, 田中結華, 古城門靖子, 中岡亜希子, 森谷利香, 河井伸子
	201110	変形性膝関節症に伴う疼痛がある患者に対する温電法および音楽聴取を用いた看護介入の効果	日本看護技術学会第10回学術集会	福満舞子, 杉本吉恵, 田中結華, 高辻功一
	201110	ナノミストが及ぼす身体への影響-皮膚の状態と四肢皮膚温の変化-	日本看護技術学会第10回学術集会	隅田千絵, 福満舞子, 伊藤良子, 杉本吉恵, 田中結華, 高辻功一, 森木ゆう子, 中山由美, 前川泰子, 山居輝美
	201112	看護専門外来を運営する認定看護師のコミュニケーションの特徴	第31回日本看護科学学会学術集会	勝山貴美子, 田中結華
	201202	訪問看護師とのストーリーマケア連携に関する検討	第29回日本ストーリーマ・排泄リハビリテーション学会総会	松田常美, 田中結華
	201202	ストーリーマケアに発生した壊疽性膿皮症の診断が困難であった一症例	第29回日本ストーリーマ・排泄リハビリテーション学会総会	曾我智美, 松田常美, 林純代, 田中結華, 前田清

氏名	発表年月	発表課題名	会議・学会名	発表者名
細田 泰子	201105	eラーニングによる未就労看護師のための再就職支援研修システムの開発と評価	教育システム情報学会 2011年度第1回研究会	中村裕美子, 真嶋由貴恵, 前川泰子, 牧野裕子, 中嶋有加里, 平松瑞子, 星和美, 細田泰子
	201106	臨床看護師の看護過程展開能力とその関連要因の検討	第17回日本看護診断学会学術大会	中橋苗代, 細田泰子, 中岡亜希子, 新瀬朋未
	201108	看護系大学生の臨地実習におけるレジリエンスの構成要素	第37回日本看護研究学会学術集会	隅田千絵, 細田泰子, 星和美
	201108	看護系大学に所属する若手教員の学習ニーズとその関連要因	第37回日本看護研究学会学術集会	土肥美子, 細田泰子, 星和美
	201108	看護師および学生の感情労働と看護実践力の関連	第37回日本看護研究学会学術集会	片山由加里, 細田泰子
	201108	看護師の潜在期間別みた看護技術自己評価の特徴	第37回日本看護研究学会学術集会	神戸美輪子, 細田泰子, 星和美
	201108	フロー理論に基づく新人看護師の心理的発達の様相	第37回日本看護研究学会学術集会	井上奈々, 細田泰子, 星和美
	201112	看護学実習における学生・教員・実習指導者のメタ認知的活動の探究—状況認知に焦点をあてて—	第31回日本看護科学学会学術集会	新瀬朋未, 細田泰子, 中岡亜希子, 中橋苗代
	201112	看護学実習における学生・教員・実習指導者のメタ認知的活動—思考過程に焦点をあてて—	第31回日本看護科学学会学術集会	中橋苗代, 細田泰子, 中岡亜希子, 新瀬朋未
	201112	看護学実習における学生・教員・実習指導者のメタ認知的活動—看護実践に焦点をあてて—	第31回日本看護科学学会学術集会	中岡亜希子, 細田泰子, 中橋苗代, 新瀬朋未
201202	Differences in the emotional labor of university students and vocational school students and the relation of emotional labor to practical nursing skills and metacognition	15th East Asian Forum of Nursing Scholars	Yukari Katayama, Yasuko Hosoda	
別宮 直子	201108	膝頭十二指腸切除術を受けた高齢がん患者の配偶者が抱える退院後の生活管理の困難と対処法	日本看護研究学会	吉村弥須子, 白田久美子, 前田勇子, 花房陽子, 駒田良子, 別宮直子
岡崎 裕子	201107	採血・点滴を受ける幼児のプレハレーション過程における親と医療者との協働に関する看護師の認識	日本小児看護学会第21回学術集会	岡崎裕子, 榎木野裕美, 高橋清子, 鈴木敦子
	201109	採血・点滴を受ける幼児のプレハレーション過程における親と医療者との協働に関する医師の認識	第58回日本小児保健学会	岡崎裕子, 榎木野裕美, 高橋清子, 鈴木敦子
椿 知恵	201111	保健授業終了後の教員インタビューから見てきた成果と課題	第34回医協学術報告会	洪京華, 高知恵, 尹佳愛, 李美順, 周英姬
古山 美穂	201109	エイズ看護及び教育に対する看護管理者のニーズ	第42回日本看護学会成人看護Ⅱ	古山美穂, 佐保美奈子, 豊田百合子, 畑井由美子, 泉柚岐, 飯沼恵子, 澤口智登里, 熊谷祐子, 下司有加
	201109	エイズ看護及び教育に対する看護職者のニーズ	第42回日本看護学会成人看護Ⅱ	古山美穂, 佐保美奈子, 豊田百合子, 畑井由美子, 泉柚岐, 飯沼恵子, 澤口智登里, 熊谷祐子, 下司有加
	201109	養育期にある親のウェルネスを志向したニーズ	第52回日本母性衛生学会学術集会	古山美穂, 西頭知子, 丹治恵実
	201110	臨床看護職と高校教諭の協働をめざした生と性の教育活動	第24回日本看護研究学会第24回近畿・北陸地方学術集会(近畿)	古山美穂, 佐保美奈子
	201111	アクティビティを取り入れたHIV研修プログラムの検討	第25回日本エイズ学会	熊谷祐子, 佐保美奈子, 古山美穂, 工藤里香, 豊田百合子, 畑井由美子, 泉柚岐, 下司有加, 白飯琢磨, 澤口智登里, 王美麗, 繁内幸治, 須見彰
	201111	大学生のコンドーム使用の実態	第25回日本エイズ学会	佐保美奈子, 古山美穂, 中澤舞, 中嶋岳志, 高橋恭一, 上島麗奈, 下原麻実
山田 加奈子	201106	妊婦の全席シートベルト着用をめざした教材に対する妊婦の評価	第13回日本母性看護学会学術集会	中嶋有加里, 町浦美智子, 山田加奈子
	201107	携帯電話の電磁波による健康リスクと看護学生の認知—妊婦とのリスクコミュニケーションに向けての検討—	第52回日本母性衛生学会京都	山田加奈子, 中嶋有加里, 上田晃子, 北林美紗子, 高英実
江口 恭子	201106	生活の場である特養での看取りを実現するために行っている看護職の支援内容	日本老年看護学会第16回学術集会	長畑多代, 山内加絵, 松田千登勢, 江口恭子
	201107	苛立ち・暴言のある認知症高齢者をケアする認知症対応型通所介護の職員の感情	日本ヒューマン・ケア心理学第13回大会	江口恭子, 長畑多代
日下部 祥子	201110	クロザピンによる薬物療法における看護実践の内容	日本看護学会:精神看護	宮原加奈, 日下部祥子
	201111	応用行動分析を用いた行動制限最小化の取り組み	日本看護学会:精神看護	日下部祥子
深山 華織	201112	日中独居で過ごす要介護高齢者の不安とその対処	第31回日本看護科学学会学術集会	深山華織, 中村裕美子, 牧野裕子
	201110	認知機能低下予防教室参加者の日常活動における予防行動の定着状況	第70回日本公衆衛生学会総会	牧野裕子, 中村裕美子, 深山華織, 今川志津子, 太田暁子
山内 加絵	201106	生活の場である特別養護老人ホームでの看取りを支える看護実践リストの検討	日本老年看護学会 第16回学術集会	長畑多代, 松田千登勢, 山内加絵, 江口恭子
	201106	介護保険施設における看護・介護職のシエティングへの取り組み第1報—シエティングの取り組みの経緯と看護・介護職の役割	日本老年看護学会 第16回学術集会	佐々木八千代, 白井みどり, 山内加絵, 北村有香, 長畑多代, 杉本吉恵, 廣瀬秀行
	201106	介護保険施設における看護・介護職のシエティングへの取り組み第2報—看護・介護職のシエティングの判断と実際—	日本老年看護学会 第16回学術集会	白井みどり, 佐々木八千代, 北村有香, 山内加絵, 杉本吉恵, 長畑多代, 廣瀬秀行
石橋 千夏	201108	再入院に至ったクローン病患者の病勢の変化への対処	第16回日本難病看護学会学術集会	石橋千夏, 旗持知恵子, 数下八重
井上 奈々	201108	フロー理論に基づく新人看護師の心理的発達の様相	第37回日本看護研究学会学術集会	井上奈々
徳岡 良恵	2012.2	がん看護専門看護師が捉える医療ニーズとニーズに対する支援活動と成果	第26回日本がん看護学会学術集会	田中結美, 田代真理, 笠谷美保, 高山良子, 吉田智美, 宇野さつき, 奥朋子, 成松恵, 二宮由紀恵, 根岸恵, 細田志衣, 渡壁晃子, 角野美佳, 徳岡良恵, 松本仁美
松本 智晴	201107	DPCを用いた入院期間に及ぼす影響要因と看護ケア量との関係性に関する分析	第12回日本医療情報学会看護学術大会	松本智晴, 山本むつみ, 信太圭一, 宇都由美子, 熊本一郎
	201111	急性期医療における看護量の可視化とDPCを用いた看護ケアの均てん化に関する研究	第31回医療情報学連合大会	松本智晴, 山本むつみ, 信太圭一, 宇都由美子, 熊本一郎
隅田 千絵	201108	看護系大学生の臨地実習におけるレジリエンスの構成要素	日本看護研究学会第37回学術集会	隅田千絵, 細田泰子, 星和美
	201110	ナノミストサウナが及ぼす身体への影響—皮膚の状態と四肢皮膚温の変化—	日本看護技術学会第10回学術集会	隅田千絵, 福満舞子, 伊藤良子, 杉本吉恵, 田中結華, 高辻功一, 森木ゆう子, 中山由美, 前川泰子, 山居輝美

4) 競争的資金

氏名	申請先	研究種目	研究課題名	獲得金額 (千円)	代表・分担 区分
垣本 和宏	国立国際医療研究センター	国際医療研究開発事業	開発途上国における HIV対策の評価及びその改善に向けた研究	1000	分担
中山 美由紀	公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団	研究助成	NICU長期入院児の在宅移行を支える訪問看護師に対する教育プログラムの検討	800	代表
榑木野 裕美	三菱財団助成	社会福祉部門	被虐待児に対する環境療法的アプローチによるケアモデルの構築	1200	代表
岡本 双美子	公益財団法人 大阪ガスグループ 福祉財団	研究・調査助成	ホームホスピス「愛逢の家」の効果に関する調査研究	550	代表
和泉 京子	公益財団法人 大阪ガスグループ 福祉財団	研究・調査助成	社会経済格差による健康格差をふまえた国民健康保険加入者の壮年期から高齢期までの継続的な支援方略の開発	800	代表
中山 由美	一般財団法人 日本救急看護 学会研究	研究助成	救急領域の新人看護師のストレス反応に影響を与える教育的支援および関連要因の検討	200	代表

5) 共同研究・受託研究

氏名	種別	団体名	事業名称	受入金額 (千円)	代表・分 担
高見沢 恵美子	受託研究	独立行政法人 日本学術振興会	学術動向等調査研究	1870	代表
杉本 吉恵	共同研究	株式会社 アイン	ナノミストバスの基礎研究	230	代表
佐保 美奈子	共同研究	株式会社 ワンズ	アロマオイルを用いたハンドマッサージ効果の検証	300	代表

6) 講演会・シンポジウム・研修会等の講演

氏名	講演会・シンポジウム・研修会等の講演	会場等	題名	日時
垣本 和宏	第24回びわ湖国際医療フォーラム	滋賀県大津市 ピアザ淡海	世界のHIV対策の動向と日本の課題	2012年 1月14日
	専任教員養成講習会	大阪府看護協会	生命倫理	2011年6月10日, 24日, 7月8日, 22日
中山 美由紀	看護研修会	大和郡山市 中央公民館	看護に必要な家族ケアの基礎知識	2011年4月22日
	厚生連高岡病院若草会 講演会	厚生連高岡病院	家族看護	2011年7月9日
	NICUにおける退院支援と在宅医療の実際～つながろう 子どもと家族の笑顔のために～	クレオ大阪	「NICU長期入院児の在宅移行を支える看護に関する調査」報告	2012年2月8日
榎木野 裕美	大阪府実習指導講習会	大阪府看護協会	小児看護学実習	2011年7月, 10月
町浦 美智子	看護研究研修	大阪府立母子保健総合医療センター	看護研究におけるクリティックについて クリティックの基礎知識・実際	2011年7月19日
上野 昌江	保健師学生実習指導者研修	大阪府新別館	保健師教育と臨地実習の動向	2011年4月22日
	羽曳野市要介護児童対策地域協議会研修会	羽曳野市役所別館	児童虐待発生予防における乳児家庭全戸訪問事業と養育支援訪問事業の意義と役割	2011年5月30日
	児童虐待防止協会オープン講座実践編	大阪社会福祉会館	地域における子ども虐待の予防早期発見・支援のあり方・親に寄り添う支援と家庭訪問	2011年8月6日
	大阪市平野区 要介護児童対策地域協議会研修会	大阪市平野区役所	子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について	2011年10月7日
	京都府山城保健所管内 要介護児童対策地域協議会研修会	木津川史東部交流会館	子ども虐待発生予防と子育て支援	2011年11月30日
	北海道 地域力・スキルアップ研修	北海道子ども未来推進局	子ども虐待の発生予防をめざして保健機関に求められている虐待予防活動と地域ネットワークの重要性	2012年3月7日
中村 裕美子	大阪府看護教員養成講習会	大阪府看護協会	在宅看護	2011年9月5日
	羽曳野市健康フェア	はびきのコロセアム	脳を鍛えて豊かな生活	2011年10月16日
	大阪府保健師2年目研修	大阪府大阪府庁北別館	保健師の地区活動	2011年10月26日
	看護導入研修	社団法人国際厚生事業団	インドネシア人看護師候補者に対する看護導入研修	2011年12月7日
	大阪府立大学・朝日カルチャーセンター 21世紀塾	朝日カルチャーセンター 朝日新聞ビル5階 中之島教室	脳を鍛えて豊かな生活	2011年12月10日
高見沢 恵美子	大阪府立病院機構看護職員マネジメント・スキルアップ研修	大阪府立病院機構母子総合医療センター	看護倫理	2011年10月6日
旗持 知恵子	「ホット&ハートの会」健康講話	療養学習支援センター	COPD・高血圧と食生活	2011年11月30日
佐保 美奈子	大阪府実習指導者講習会	大阪府看護協会	母性看護学実習	2011年7月, 10月
	大阪府看護教員養成講習会	大阪府看護協会	母性看護学	2011年9月
	エイズ研修会 初級	国立大阪医療センター	性の多様性	2011年9月
	精神科実習指導者講習会	精神看護協会	母性看護学	2012年2月
	教職員研修	府立富田林高校	セクシャルマイノリティ	2012年2月
和泉 京子	査読研修 講師	大阪府看護協会	査読研修	2011年9月30日
	看護導入研修	社団法人国際厚生事業団	フィリピン人看護師候補者に対する看護導入研修	2011年12月1日
	中核市保健師活動を考える会「つきの星」地域診断研修 講師	高槻市	日々の業務から考える地域診断	2011年12月13日
	精神科実習指導者講習会	精神看護協会	地域看護・在宅看護	2012年2月15日
松田 千登勢	保健師助産師看護師実習指導者講演会(特定分野)	近畿厚生局	老年看護実習指導の実際	2011年10月18日
藪下 八重	職員研修会	大阪府立呼吸器アレルギー医療センター	質的研究、ケーススタディ	2012年2月10日

氏名	講演会・シンポジウム・研修会等の講演	会場等	題名	日時
田中 結華	臨床指導者研修	大阪府立成人病センター	臨床指導	2011年
細田 泰子	臨地実習指導者研修	大阪府看護協会	臨地実習指導の原理と実際	2011年5月16日, 6月6日
	大阪府看護教員養成講習会	大阪府看護協会	看護教育評価論	2011年5月23日, 6月13日, 20日, 27日
	研究Ⅱ研修	大阪府立呼吸器アレルギー医療センター	文献クリティーク	2011年7月4日
	大阪府立5医療センター 看護職員研修会	大阪府立急性期総合医療センター	教育目標、教育方法、教育評価について	2012年2月17日
	看護教育研修会	奈良県立医科大学附属病院	実地指導者研修	2012年3月21日
徳岡 良恵	がん看護講演会「がん患者の意思を尊重して療養の場をつなぐ専門看護師の活動」	梅田ブリーゼプラザ小ホール	専門看護師の活動	2011年9月16日
	医療シンポジウム「がんを知り、がんとともに生きる」	りそな銀行大阪本社ビル講堂	がんとともに生きる 早期治療と再発について	2012年1月29日
	がん性疼痛看護認定看護師養成課程 講師	大阪府看護協会	「がん性疼痛のアセスメントと計画の立案・フィジカルアセスメント」	2011年6月14日
	緩和ケア認定看護師養成課程 講師	香川大学医学部	「臨床倫理：緩和ケアで直面しやすい倫理的問題、問題解決と資源の活用」	2011年11月12日
松本 智晴	日本看護協会主催全国看護セミナー	福井県	DPCの実践的な理解で現場の看護が劇的に変わる	2011年7月3日
撫養 真紀子	リーダーシップマネジメント研修	大阪府立母子保健総合医療センター	リーダーシップマネジメントに必要な基礎知識	2011年7月28日, 12月9日
伊藤 良子	日本看護協会主催全国看護セミナー	福井県	DPCの実践的な理解で現場の看護が劇的に変わる	2012年3月21日

7) 公開講座

氏名	公開講座名	題名
垣本 和宏	2011年 大阪府立大学講座	世界と日本のエイズ事情、そして私たちの意識
中山 美由紀	はびきの市民大学	災害について子どもと話そう
植木野 裕美	はびきの市民大学	もしものときに -子どもとの関わり-
長畑 多代	はびきの市民大学	高齢者に必要な災害への備えと対処
佐保 美奈子	平成23年度羽曳野キャンパス公開講座	タッチングとリラクゼーション
牧野 裕子	平成23年度羽曳野キャンパス公開講座	慢性疾患を持つ方とご家族の災害に向けた備え
石田 宜子	療養支援学習センター	肺がん患者さんのご家族のためのサロン
	はびきの市民大学	市民が行う災害時応急救護
古山 美穂	療養学習支援センター	療養学習支援センターセクシュアリティ教育
井上 奈々	療養支援学習センター	肺がん患者様のご家族のためのサロン
齋野 貴史	平成23年度羽曳野キャンパス公開講座	集団生活と感染予防
池内 香織	はびきの市民大学	心を癒す音楽のちから
伊藤 良子	はびきの市民大学	災害と女性

8) 出張講義・出前講義

氏名	出張・出前先	講義名	日時
上野 昌江	大阪府立寝屋川高等学校	子ども虐待予防と保健師の活動	2011年10月13日
長畑 多代	河内長野市社会福祉協議会	保健・看護の視点からみた認知症	2011年11月15日
	守口市第二地域包括支援センター	出前講義「認知症を地域で支えるには」	2012年1月18日
旗持 知恵子	私立大阪学芸高校	看護という仕事ーその魅力と大学での学びー	2011年12月13日
佐保 美奈子	大阪府立今宮高等学校	デートバイオレンス予防とおしゃれ障害予防	2011年4月28日
	大阪府立農芸高等学校	男女のお付き合いのマナーとデートバイオレンス予防	2011年6月10日
	羽曳野市立子育て支援センター	産後はますます元気で美しく	2011年6月14日
	大阪府立大和川高等学校	エイズ予防講座	2011年6月23日
	大阪府看護協会桃谷センター	大阪のHIVの現状 セクシュアリティ概論	2011年7月28日, 10月27日
	大商大附属高等学校	デートバイオレンス予防とおしゃれ障害予防	2012年1月12日
	大阪府立成美高等学校	生と性の授業	2012年1月26, 27日
	大阪府立堺東高等学校	デートバイオレンス予防	2012年2月9日
	堺市立堺高等学校	生と性の授業	2012年2月1, 2日
中嶋 有加里	大阪府立懐風館高等学校	助産の仕事	2011年11月24日
藪下 八重	プール学園高等学校	看護職への道～看護職に関心のあるあなたへ～	2011年7月14日
椿 知恵	大阪府立成美高校	男女のお付き合いのマナーとデートバイオレンスの予防	2012年1月26, 27日
	堺市立高等学校	男女のお付き合いのマナーとデートバイオレンスの予防	2012年2月1, 2日
古山 美穂	羽曳野市立子育て支援センターむいかいの	もっと楽しく！ずっと楽しく！我が家のいいところ発見しましょ	2011年5月17日
	大阪府立農芸高等学校	男女のお付き合いのマナーとデートバイオレンスの予防	2011年6月10日
	大阪府教育センター附属高等学校	保健講話「これからの自分探し」	2011年6月10日
	和歌山開智高等学校	セクシュアリティと向き合う看護ー性のイメージを揺らして	2011年7月16日
	大阪府看護協会桃谷センター	DVDを使用した出前講義「エイズ予防教育リーダー養成研修」	2011年7月30日
	大阪府立天王寺高等学校	保健講話「これからの自分探し」	2011年10月27日
	大阪府看護協会桃谷センター	DVDを使用した出前講義「エイズ予防教育リーダー養成研修」	2011年10月29日
	大阪府立成美高等学校	生と性の授業	2012年1月26, 27日
堺市立堺高等学校	生と性の授業	2012年2月1, 2日	

山田 加奈子	大阪府立農芸高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2011年6月10日
	大阪府立成美高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2011年1月26, 27日
	堺市立堺高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2012年2月1, 2日
	大阪府立堺東高等学校	男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防	2012年2月9日
隅田 千絵	大阪府立狭山高等学校	看護を学ぶとは？～心と身体で感じてみよう～	2011年 12月16日

9) 公的な委員会など

氏名	委 嘱 先 ・ 参 画 委 員 会 名	役 職 名	職 務 内 容
垣本 和宏	国際協力機構 青年海外協力隊 技術支援委員会	委員	エイズ対策隊員に対する技術的支援
	大阪府立病院機構呼吸器アレルギーセンター治験審査委員会	委員	治験事例を審査
	WHO HIV研究ネットワーク	メンバー	HIVに関する研究情報の共有と報告
中山 美由紀	小児看護推進事業委員会	委員	訪問看護ステーションにおける小児看護推進事業委員会委員
榑木野 裕美	大阪府看護協会調査研究倫理審査会	委員長	大阪府看護協会が関与する調査研究に関する倫理審査
町浦 美智子	日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会 母性看護分科会	委員長	申請のあった母性看護専門看護師教育課程の内容の審査
上野 昌江	大阪府保健師人材育成・評価検討会	委員	大阪市の保健師人材育成の現状から新任期保健師・中堅期保健師の課題について検討する
	奈良県母子保健運営協議会	委員	奈良県における周産期からの母子保健の課題を検討し、妊娠初期からの医療機関と保健機関の連携を促進する
	泉大津市健康泉大津21推進委員会	委員長	泉大津市の健康づくりをめざし、各団体の健康づくり活動の推進・支援
	羽曳野市健康づくり推進協議会	委員	羽曳野市の健康づくり事業について検討する
	厚生労働省 児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会	委員	児童虐待による死亡事例の検討、第7次報告書の作成
	日本看護系大学協議会 専門看護師教育課程認定委員会 地域看護分科会	副委員長	地域看護分科会で申請のあった教育課程の教育内容を審議
	日本看護協会 専門看護師認定委員会	委員	日本看護協会 専門看護師の認定について審議
長畑 多代	大阪府介護保険審査会	委員	大阪府内の介護認定不服申し立て審理
	堺市介護保険審査会	委員	介護認定二次審査
	藤井寺市介護認定審査会	委員	介護認定二次審査
	藤井寺市地域密着型サービス運営委員会	副委員長	地域密着型サービス指定候補事業者の選定
	藤井寺市地域包括支援センター運営協議会	副委員長	地域包括支援センターの運営協議
	藤井寺市保健福祉推進協議会	副委員長	いきいき保健計画の協議
中村 裕美子	大阪府介護保険審査会	委員	大阪府に申請された介護保険制度の不服審査
高見沢 恵美子	文部科学省大学設置・学校法人審議会設置計画等履行状況調査委員会	委員	保健衛生学分野の大学院・大学設置後の履修状況を調査
	日本看護協会専門看護師認定委員会	委員	日本看護協会専門看護師の認定について審議
	日本看護協会専門看護師認定実行委員会(急性・重症患者看護)	委員長	日本看護協会専門看護師の認定審査を担当
	日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定委員会クリティカルケア看護分科会	副委員長	クリティカルケア看護分科会で、申請のあった教育課程の内容を審議
	日本学術振興会医歯薬学専門調査班	委員	看護学を含む医歯薬学系の審査員候補者の選考・審査結果の検証・学術振興会の事業に対する助言
	大阪府看護協会救急看護認定看護師教育課程教員会	委員	大阪府看護協会救急看護認定看護師教育課程の教育内容を審議
	大阪府立病院機構呼吸器アレルギーセンター医学研究倫理委員会	委員	呼吸器アレルギーセンター医学研究倫理委員会で研究倫理を審査
	堺市市立病院機構評価委員会	委員	
田中 京子	がん看護学会 教育・研究活動委員	委員	がん看護に関する研究、教育及び実践の発展と向上に努める目的で委員会活動を行う
	日本看護協会専門看護師認定実行委員会(がん看護)	委員長	日本看護協会専門看護師の認定審査を担当
	日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定委員会がん看護分科会	副委員長	がん看護分科会で、申請のあった教育課程の内容を審議
旗持 知恵子	兵庫県看護協会慢性心不全看護認定看護師教員会	委員	認定看護師教育課程慢性心不全看護コースの受講者の決定、修了要件の審査
	第9回日本循環器看護学会	委員	第9回日本循環器看護学会 企画委員

氏名	委嘱先・参画委員会名	役職名	職務内容
堀井 理司	日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定委員会 感染看護分科会	委員長	教育課程の審査
	日本感染看護学会	委員	第11回学術集会企画委員
星 和美	大阪府専任教員養成講習会運営委員会	委員	専任教員養成講習会受講生の決定、教育内容等の検討
岡本 双美子	羽曳野市介護認定審査会	委員	介護保険の要介護認定の二次判定
佐保 美奈子	大阪府看護協会 教育委員会	委員長	短期研修の検討・実施・評価
	大阪府立成美高等学校協議会	委員	教育全般の評価・検討
鎌田 佳奈美	日本看護倫理学会学術活動推進委員会	委員	学会員の能力向上に向けた支援活動 学術活動推進委員
和泉 京子	堺市健康福祉局福祉施設等施設整備審査会	委員	福祉施設等の施設整備の審査
	羽曳野市介護認定審査会	委員	介護保険の要介護認定の二次判定
	茨木市介護認定審査会	委員	介護保険の要介護認定の二次判定
	羽曳野市介護保険等推進協議会	委員	羽曳野市の介護保険等の推進
	高石市保健医療福祉審議会	委員	保健福祉医療計画の策定
	摂津市介護認定審査会	委員	介護保険の要介護認定の二次判定
	高石市老人保健福祉介護保険部会	委員長	介護保険第5期計画の策定
	高石市指定管理者候補者選定委員会	委員長	高石市立老人保健施設等選定委員長
	第2回日韓地域看護学会共同学術集会	委員	実行委員
松田 千登勢	羽曳野市介護認定審査会	委員	介護認定審査会において介護認定を行う
佐藤 淑子	大阪府看護協会学会	副委員長	大阪府看護協会主催の学会の企画、運営
	日本感染看護学会	委員	第11回学術集会企画委員
林田 裕美	大阪府看護協会認定看護師教育課程運営委員会	委員	大阪府看護協会認定看護師教育内容の審議
大川 聡子	羽曳野市介護認定審査会	委員	介護認定審査会において介護認定を行う
齋野 貴史	第42回日本看護学会	委員	第42回日本看護学会 成人看護 I - II 抄録選考委員
	日本感染看護学会	委員	第11回学術集会企画委員
伊藤 良子	堺市男女共同参画市民懇話会	委員	堺市が男女共同参画週間(2012年1月21～28日)にあわせて企画している市民を対象としたシンポジウムならびにワークショップの企画・運営
撫養 真紀子	大阪府日本看護協会認定看護管理者制度教育課程運営委員会	委員	認定看護管理者の教育プログラムの立案と評価、大阪府看護協会看護管理者研修受講生の決定
	第8回大阪看護教育管理学会	委員	実行委員
根来 佐由美	大阪府看護協会保健師職能委員会	委員	保健師職能委員会運営
	大阪府看護協会府南支部会	委員	支部会運営
山内 加絵	藤井寺市介護認定審査会	委員	介護認定審査会において二次審査を行う

10) 国際交流活動

氏名	相手国	関係機関名	活動の概要
垣本 和宏	カンボジア王国	国立母子保健センター	研究・交流事業打ち合わせ
	インドネシア	インドネシア保健省	短期専門家(JICA)
細田 泰子	アメリカ合衆国	オレゴンヘルスサイエンス大学	大阪府立大学在外研究員派遣事業による6カ月の在外研究
佐保 美奈子	ブルガリア共和国	ソフィア大学	ダマスク産ローズオイルの製造プロセス研究
	大韓民国	Dong A.University	GID症例の手術見学

11) その他の社会貢献

氏名	社会活動先	職務内容
垣本 和宏	経済産業省 東アジアASEAN経済研究センター	東アジアASEAN経済研究センター 研究プロジェクトへの参画
	大阪府立母子総合保健医療センター	JICA集団研修にて指導
長畑 多代	羽曳野市家族介護者ネットワーク構築支援事業	事業に関するコンサルタント業務 スーパーバイザー
松田 千登勢	羽曳野市社会福祉協議会	家族介護者ネットワーク構築支援事業へのコンサルティング
	おおさか介護サービス相談センター	専門相談
田中 結華	府立5医療センター	平成23年度府立5センター新人看護職員実地指導者研修実施要領

編集後記

大阪府立大学看護学部の年報第7巻を、看護学部各委員会、羽曳野キャンパス事務所の皆様等のご協力により、作成することができましたことを厚くお礼申し上げます。

本報の掲載内容は、平成23年4月から平成24年3月までの1年間の教育・研究等の内容に関するものです。

編集作業を通して、より一層、本大学看護学部の充実のために教職員、学生とともに改善に向け一歩ずつ積み上げる努力が必要であることを痛感いたしました。さらに大阪の社会風土に根ざす開かれた公立大学としての役割を担う、社会に貢献する意義ある教育・学術研究の府としての実績を評価される様今後も益々活動していきたいと考えております。

部局評価・企画実施委員会

委員長	中山 美由紀	学部長	高見沢 恵美子
委員	高辻 功一	委員	青山 ヒフミ
委員	籙持 知恵子	委員	細田 泰子
委員	石田 宜子	委員	木村 洋子
委員	深山 華織		